

## 2-5 新TVセンターにおける効率的な組織と全く新しい運用体制

ERTU総裁である Hussein Mohamed Enan 氏に依れば、新TVセンターはERTU傘下の機関ではあるが、その運営は財政的にもERTUからは独立した1つの営利を追求する組織になる。

それは現在ERTU傘下にありながら映像、音声テープのダビングを行っている Sono Companyと同様な位置づけになる。営利を目的とする機関であるため、職員の給与ベースは、現カイロ本部とは異って他の民間会社と同様に決められる。

新TVセンターでは固定給と契約給とがあって、夫々の職能・仕事に応じて決められるので、或る者はERTUの職員であり、又或る者は契約によってその期間だけの職員と云うことになる。

新TVセンターでは、現カイロ本部では休日としている金曜日も仕事日とする。  
(スタジオの有効使用のため)

そして最も近代的な番組制作設備、よく組織され且つコンパクトにして効率的な日常運用が合理的に設計された建物レイアウトとも相まって、新TVセンターは、現カイロTVセンターの2倍の生産性で以ってより多くより良い番組を制作する。

ERTUは 6th Oct City に新TVセンターの敷地を既に購入し建設のための職員住宅の購入も決定した。6th Oct City には現在、急ピッチで新住宅が建設されつつあり1985年中に4,000戸、そして年々その数は増えて最終的には人口50~60万の都市になる予定である。

6th Oct Cityはカイロ市西方25Kmの砂漠の中に計画されているが、ここは昔ナイル川が氾濫した河川のあった地域でもあり水さえあれば青々として緑地帯にし得る土地である。

現在、ナイル川から直径1mもの水道管で灌漑用の水を引く工事が進行しており、いくつかの井水を汲み上げる井戸も出来て一部は既に緑化されつつある。

送電線や電力プラントも出来て近代化都市として区画整理等十分に検討され、現在着々インフラ工事が進められている。新TVセンターの用地は、カイロ市に通ずるハイウェイに沿って市のカイロ寄りに位置しその広さは200万m<sup>2</sup>(60万坪)もある。この

敷地の中にERTUはカイロ市からくる俳優の泊まるホテルもスタジオコンプレックスの近くに考えている。

ERTUが新TVセンターのサイトとしてこの場所を選んだもう1つの理由がある。それは、その広大な敷地を利用してここにオープン撮像エリアを設けることが出来るからである。そこでは、各種のオープンセットを配置し、砂漠を背景としたショットも容易に得られる。

勿論こうした野外撮影は群衆がたちまちにして現われて撮影の邪魔になるカイロ市では出来ないことである。

この編の終りにERTU年報(1984/1985)を付属資料として添付してある。



## 付 属 資 料



## ERTU年報（1984／1985）

ERTUは法的規定に基づいて設けられた、総合的な独立の組織体である。ERTUは、エジプト・アラブ共和国のラジオとテレビ事業の運営について責任を持っている。

### ERTUの機能

ERTUはすべてのオーディオ・ビジュアル業務をコミュニティの要請に適切に合致させ、その目的を達成する任務を持っている。

### 管理規定

ERTUは以下を通じて運営への参加を保証している1979年の法律番号13に基づく管理機構として設置されたものである。

- 総 会
- 理 事 会
- 代表委員会

### 放送体制

ERTUは次のようなオーディオ・ビジュアル領域で最も近代的な体制および組織を使って実施している。

- 7つのネットワークを含む放送を行うネットワークとしての組織体制。
- テレビ放送での完全に独立した体制（これらは10月6日に送信を開始した第3チャンネルとともに、3つのチャンネルを含んでいる）。
- この組織は、すべての視聴者および聴取者の嗜好の全体或は大きな部分に合致することで、その需要を満たすことを保証する。

## 送 信

送信の領域で著しい業績が得られたが、そのうち最も顕著なものは：

- エジプト国内の全部の場所をカバーする送信、および加えて、サウジアラビア、ヨルダン、シリア、レバノン、イスラエル、リビアのような近隣諸国でも視聴可能としたこと。
- 世界規模で視聴できる強力な特別の衛星中継局の設置。
- ERTUは全地域での第1マイクロウェーブ回線を使用して、主導的立場で中東での開拓者の位置を維持したこと。
- 通信分野およびマイクロウェーブへの搬送への太陽エネルギーの使用などの最新技術。

## 国際関係分野

- ERTUはアラブ世界および外国での同様の事業と強力かつ緊密な協力を積極的に行った。すなわち番組交換、協同制作、研修および経験の交換である。
- ERTUはまた、中近東諸国および国際的な放送連合機関の正会員として積極的な活動を行った。かつ、放送およびテレビ活動と関係した会議や催しの大部分に通常参加した。
- 国際関係を担当する部では、広義のコミュニケーション分野（当然衛星の分野を含む）で、多くの種々の研究、調査および報告書を実施、提供した。
- ERTUは事実、特にすべての種類の放送活動においてコミュニケーションの面で最も熟達した多くの専門家を持っている。

この強みは幸にも、エジプト国内だけでなく、放送技術および放送と関連した運営分野におけるエジプトの経験を積極的に受け入れて常時実施している。

このことはすべてアラブの放送事業体の認識する所である。

## ERTUの実績

### 1-ラジオ部門

ローカル・ネットワークの送信時間は159時間42分であり、次のように分布している。

#### ネットワークおよび送信

ローカルネットワーク	時間	分	送信比率
主要ネットワーク	24	-	15.03%
アラブの声	27	30	17.22%
コマーシャル	13	45	8.61%
教養	32	2	20.04%
宗教	19	-	11.90%
ローカル	43	25	27.20%
	159	42	100.00%

### 海外番組

世界のほとんどすべての地域に、33の言語を用いて送信し、カバーしている41地域向けに1日52時間30分送信している。

	時間	分	比率
アジア・中東向け	14	15	27.14%
アフリカ向け	30	19	37.14%
ヨーロッパ向け	4	45	9.05%
北米・南米向け	9	-	17.14%
ヘブライ語	5	-	9.53%
	52	30	100.00%



## スタジオ

- 生放送用 6スタジオ
- 編集、インタビューおよび対談用 18スタジオ
- ドラマ用 4スタジオ
- 音楽用 7スタジオ
- ニュース用 10スタジオ
- 政治ニュースモニター用 10室
- 通信員およびリポート用 7室
- 主調整室

## 送信所

- 出力合計 9,296kwの送信所 102ヶ所

## 番組

826の番組を提供し、内 213は新規番組であり、83の異なるイベントをカバーした。

- 番組は生活の全面に関するもの、聴取者が興味を持つものを取材。
- ラマダンの聖月に 134番組を放送。

## 新職員の研修

84/85 年には予定される 327人の放送用アナウンサーに対して研修を実施した。

## 2-テレビ部門

84/85 年のテレビ送信時間の合計は 8,743時間54分であった。従って1日あたり2チャンネルで23時間57分である。比率は第1チャンネルが53.7%、第2チャンネルが46.3%である。

代表的1週間の番組放送時間

番組種別	時間	分	比率
公共番組	26	30	25.53%
ニュース	20	15	19.50%
教育、文盲向け	17	45	17.09%
バラエティ、娯楽	13	50	13.32%
教養	11	55	11.48%
宗教	10	5	9.71%
スポーツ	3	30	3.37%
	103	50	100.00%

(注) これらにはドラマおよび特別行事(祝事およびそれに類するもの)番組は含まれていない。

スタジオ

カイロ、マスピロのテレビ放送ビルの内部のスタジオは12あり、それらは最新の技術と科学的な設備で装備されている。スタジオ自体地域的に最も巨大なものである。

それらにはドラマ制作とバラエティ用の5つのスタジオが含まれ、スタジオ番号は1, 2, 5, 6, 10である。

- さらに番組制作スタジオが3 (ナンバー 3, 4, 12)
- アナウンサースタジオが3
- ニュース用スタジオが1
- テレビでは合計 445時間の衛星経由のメッセージ 924件を受け、同放送局からは合計64時間30分で 161件のメッセージを送信。
- テレビ送信局は合計出力329.2kwでその数は62局。
- 84/85 会計年度にテレビ画面に送られた教育番組は 475時間。ドキュメンタリー映画は、1980年には15時間であったのに比べて合計56時間になった。
- テレビ放送のニュースの本部は、そのうちのかなりのニュースがテレビ画面に送られる。ニュース通信社からの 4,000の配信のほかに、ヨーロッパ放送連合の衛星経由で送られる毎日2つのメッセージも受信している。

- テレビ画面に送られる番組数は週あたり 134で、そのほかに特別行事および特別のドラマ（アラビアのものおよび外国もの）がある。送信時間は合計 104時間。
- ビデオ制作部門により制作された34の作品のほかに、63時間25分の送信時間にのぼる46の作品がテレビ映画部門で制作された。これらにはエピソード、劇、短いストーリーが含まれる。外国映画が 1,420時間、テレビ制作部門による映画、歌が 1,820時間放送された。

### 財 務 部 門

当部門の 1984/1985会計年度の収入は合計77,002,867エジプトポンド(L.E.)で、次のように表示される。

収入源	合 計	比率
廣 告	26,657,644	34.62 %
売 上	10,110,146	13.13 %
教育、インフォメーション事業	20,300,000	26.36 %
受信料	5,539,392	7.19 %
その他収入	14,395,683	18.70 %
	77,002,865	100.00 %

(注) これらの収入は前年より38.22 %の増である。

#### 売上、および広告番組の時間数

外国に売られた番組時間：

1984/1985 会計年度に合計 5,790時間

広告：

同会計年度に留保された合計時間は 400時間を超えなかった。

(注) テレビ放送では個別の代理業者と直接取引を行うほか、20の広告代理店と取引を行った。

## テレビ放送の広告料

通常時間		特殊時間	
チャンネル1	チャンネル2		
エジプトポンド(L.E.)	エジプトポンド(L.E.)	エジプトポンド(L.E.)	時間(秒)
260	240	150	10
400	360	220	20
400	540	300	30
720	800	400	45
800	900	500	60

(注) テレビ番組は14のアラブのテレビ放送に対して売られた。

- 外国市場を開拓すべく努力を行っている。
- 84/85 会計年度に売却された時間は合計 5,790時間。

### 4 - 放送技術部門

- 放送技術部門は衛星のような現代的方法を用いることによって、電子利用の分野での技術的進化と歩調を合わせている。
- エジプトの情報サービスに資するような、或は有用な技術、技術的研究および調査の実施
- 中波、短波、超短波(FM)
- ラジオ、テレビスタジオの運用、維持およびそれへの音響効果(ステレオ)と視覚効果、およびレコーディングのための超現代的装置、および音声調整のための多重チャンネルの新式の卓、および音声自動化装置に加えて他の音響装置、および最新の電子音声効果の供給。
- 目的計画に従って、共和国全土にわたり諸計画が行われている。  
 ニュース収集、外部写真および録画分野でテレビ装置を開発することに加えて、放送受信に関しての遠隔地域に対してマイクロウェーブ回線と送信センターを供給した。
- 地域、放送分野では技術部門は北部および南部シナイのラジオ放送局の建設を完成させた。

- 当部門はまた、アレクサンドリアのラジオ放送局のスタジオを替え、さらに、中部デルタ地域の放送局の編集用の2つの卓を入れ替えた。
- ラジオ、テレビビルの拡張に関して工事継続中。
- 日本と協力して、当部門はシックスオクトーバシティの新センターの建設に関して計画推進中。

1984/1985 のラジオ、テレビ送信

テレビ

	放送局数	出力 kw
チャンネル 1	3 1	164.6
チャンネル 2	3 1	164.6
計	6 2	329.2

ラジオ

ラジオ送信局	75	5771
中波および短波	22	3500
FM局	5	25
計	102	9296

上表で1984/1985 年度に送信所の数は 164ヶ所全送信出力は9625.2kwであることを示した。

## 5 - ERTUの最高管理機関

### 理 事 会

理事会は1984/1985年に64の会期を持ち、理事会に提出された議題について検討を加えたが、このような経常的な活動に加えて、さらに9の会期を持ち、37の議題についても討議、検討を加えた。

### 代 表 委 員 会

代表委員会もまた、9つ会期を持ち、68の議題を検討したが、これらの議題にはERTUの活動に関する年次報告書の承認、および1984/1985会計年度のERTUの一般予算を承認するERTUの年次総会に加えて、さまざまな部門での全活動が含まれている。

### ニュース本部

- 24,000件のニュースですべての出来ごとをカバーした。
- 即時的なコミュニケーションの実施。
- 200のニュースおよび分析速報の発行
- 当本部で検討された7,148の雑誌および定期刊行物からジャーナリズム部によって作られた新聞、雑誌ニュースの1,390の速報の発行。
- 翻訳材料：1,692のエッセイを英語、フランス語、ドイツ語およびヘブライ語に翻訳。
- 外国放送から9,552のニュースをモニター。
- 分析：1,250の政治関係レポートの分析。
- エジプトおよび世界での出来ごとについて1,887のレポートを作成。
- ドキュメント用として315,000のマикроフィルムを作成。
- 政治情報として1,015件をファイルした。

## 国際関係

6年にわたる不在の後、エジプトはヨーロッパ放送連合(EBU)に正会員として1985年1月に復帰した。すべての政治ニュース番組をヨーロッパの衛星から受ける地上局の建設が取り決められたが、これは経費の削減にとって重要であった。

これによる送信は次の年の初めに開始が予定されている。

ナポリでエジプトを含む40の会員によって開催された EBUの総会では、最も重要な議題として以下について討議された。

1. さしあたり衛星によるニュース番組を受信する地上局の建設。
2. エジプトの番組を加盟者の国のテレビで放送することを通じてエジプトを示すことの必要性。この国の番組制作は当地域で第1級のものの1つだからである。
3. 作曲家と著作者の演奏、公開に関する権利の保証。
4. 1984/1985 年中に行われた情報交換の量は、ラジオのテープ 538、ビデオテープ 915で、前年と比べテレビで 142.34 %増加した。
5. EBU および14ヶ国間と協定、実施計画について調印を行った。

## 事務総局

### 聴視者調査

聴取者と視聴者の分野では、ERTUは調査研究委員会の承認により、次の4分野のフィールド調査を含む調査を実施した。

- 聴取と視聴傾向調査
- ラジオ、テレビのドラマ番組調査
- ラジオ、テレビの児童向け番組調査
- 非都会地域の中等学校(secondary school)のサンプルを用いて教育番組を再検討した。加えて、調査部はエジプトの国外居住者の、エジプトの海外向け番組の聴取状況についてフィールド調査を行った。

- 番組調査部は、ラジオの6つのネットワークとテレビの2つのネットワークで84/85年度に放送された番組について調査するため大きな努力を払った。テレビ番組全部の調査に加えて、ラジオネットワーク全部の18,363時間について調査が行われた。

## 研 修

ERTU研修所が84/85年度に実施した研修コースは、56のコースにERTUの職員1,177人、外国から124人の研修生が参加した。ほかにエジプトの衛星に関する3つのセミナーが開かれ、245人が参加した。

## 職員、従業員

ERTUの全部局の従業員数は1985年12月31日現在で15,381人で、内32%が女性である。各部門毎の人員配置は以下の通りである。

	人数	比率
放送技術	5,777	37.55 %
テレビ	4,163	27.07 %
ラジオ	3,482	22.07 %
事務総局	863	5.61 %
ERTU最高管理機関	535	3.48 %
財務部門	420	2.73 %
ラジオ、テレビ雑誌	141	0.92 %

## 社会福祉

社会福祉の領域で、ERTUは従業員に対して協力機関を通じて各種の社会的な便益を提供している。

従業員およびその児童たちのために Masperoビルの上に幼稚園も設けてある。

当幼稚園には、庭園、ビデオ、テレビおよびスポーツ用具が備えられている。

医療分野では、ERTUは従業員に対してあらゆる医療サービスを提供している。その診療所は、1984/1985年に77,945の患者を受付けた。





## 第3編

### 番組編成および制作計画



## 第3編 番組編成および制作計画

### 3-1 新テレビ・センターにおける番組制作について

#### 3-1-1 現カイロ放送センターの位置づけ

第2編に記述のとおり、エジプト国民のテレビに寄せる要望は極めて強く、ERTUのテレビにかける意欲・熱意も大きい。しかし、現カイロ放送センターがその立地条件から既に拡張の余地がなく、また古い建物・設備を劣悪な条件で運用していることから、これ以上番組制作を拡充することも番組の質向上をはかることも難しい状況に立ち至っている。

それだけに、ERTUの新テレビ・センターにかける期待も大きいものがあるが、新テレビ・センター完成後と云えども、現在のカイロのERTUのビルディングは、なお、ERTUの本部として、経営部門、ラジオ（国内、国際放送を含む）と共に従来どおり報道、一般教育教養TV番組制作を含んだ放送センターとして重要な役割を果たすことになっている。

新テレビ・センターで制作された番組も、放送に先立ってすべてカイロ・センターに送られ、そこから、あらためて全国に送出され放送されることとなる。カイロ・センターのテレビ・スタジオも、現在と同様の規模でテレビ番組の制作が進められる。

#### 3-1-2 新テレビ・センターの役割

新しく建設される新テレビ・センターでは、新しい発想による番組制作の体制を確立し、ERTUの中でも一つの独立したセクションとして運営されることになっている。

現カイロ放送センターでは、例えば、ドラマ番組制作の場合、1つのスタジオで1日あたり放送時間にして15分程度の内容のものが制作されている。これは効率のよい番組制作と云えるものではなく、その理由としては、①大道具関係スペースが狭く、且つスタジオフロアへのアクセスが悪い。②古い技術設備の故障、保守のための時間が費される ---- 等々が指摘されている。

新テレビ・センターでは、上記問題点を“他山の石”として新しい番組制作センターとして運営されなければならない。

例えば、①従来フィルムに頼っていた番組素材の収集は、最新の技術を駆使したビデオによる取材 (EFP: Electronic Field Pick up) に切り替えて、効率向上をはかる。② VTR編集に“オフ・ライン編集方式” (Off-line Editing) を採用して、番組の質向上をはかるとともに設備運用の効率化をはかる。③機材の保守・管理を合理化して番組制作に支障を来たさぬようにする。④新テレビ・センターでは金曜日、土曜日にも、番組制作ができるような運用体制を整える。----- 等々の方策が講じられ、カイロテレビ・センターとは異った新しい番組制作センターとしての体制がとられることが必要である。

このようにして、新テレビ・センターでは、夫々のスタジオでつぎのように、番組を制作することを目標とする。

①ドラマ化された番組 ----- 1スタジオ当り1日30分

②一般教育・教養番組 ----- “ ” 60分以上

(30分番組にして2～3本)

新テレビ・センターは2期に分けて建設される。1期工事完了後新テレビ・センターは運用を開始するが、この時点ではまだ2,100時間の番組制作はできない。従って1期工事が終わった段階および2期工事が終わった段階でどのような番組が制作されるべきか、テレビ・スタジオがどのように使われるか充分検討する必要がある。(表3-7 参照)そして、第1期工事が終わった時点で緊急度の高い番組が直ちに制作できる体制を整えておくことが必要である。

### 3-2 新テレビ・センターで制作される番組

ERTUでは、現在、第1、第2チャンネルで夫々1日約10時間余、第3チャンネルで1日約2時間、合計年間にして8,000及至9,000時間のテレビ放送を実施している。これに対して、現在のカイロ放送センターで制作されている番組はせいぜい年間1,900時間程度でしかない、他は外国から輸入された番組、或は、古い番組の再放送で放送時間を埋めているというのが実態である。

従ってERTUとしては、まづ、輸入番組とくに夜間ゴールデン・アワーの外国番組を自主制作の番組に置き替えてゆく事を第1の目標としている。また、現在第1、第2チャンネルでは、朝の時間帯は放送していないし、午後13時から15時の間は放送を休止している。第3チャンネルは新設されたばかりで夕方2時間しか放送されていない。

このような状況から、テレビ番組充実のため、新テレビ・センターの建設が計画された。ここではERTUの必要とする番組、新テレビ・センターで制作される番組について述べる。

#### (1) ドラマ形式による朝のシリーズ番組

国民の多数に親しまれ、日常生活の糧となるような番組を目標とする。朝の出勤前の一家団らん時、通常7:30から20分間週6日放送し、お昼12:00からの再放送も考慮する。年間100時間放送する。

$$20分 \times 6日 \times 50週 = 100時間/年$$

#### (2) ドラマ形式による夜の教育・教養シリーズ番組

この番組では、一般成人向け教育・教養の素材をドラマ化して夜のゴールデン・アワーに提供する。現在放送されている外国映画、国内で制作された映画番組に代るものとなる。45分番組を毎日シリーズものとして夜間のゴールデン・アワーに放送し、年間225時間を見込む。

$$45分 \times 6日 \times 50週 = 225時間/年$$

#### (3) ドラマ形式による特別教育、教養番組

成人を対象として問題を提起し、或は家族揃って考える話題に焦点を合わせて、毎週定まった曜日、夜間の定まった時間帯に放送する番組で、時事問題、社会問題――等国内外の色々な問題を視聴者に理解され易いよう、ドラマ形式で構成してじっくりと見てもらおうとするものである。

現在、夜間放送されている外国映画の番組にとって代るものである。当面の計画としては、毎週1時間30分の長編もの1本、1時間のもの4本を年間を通じて225

時間放送することとするがこの放送時間、放送回数は番組内容により流動する。例えば内容によっては一つの問題を色々な角度から掘り下げて2時間の長編ものとすることも考えられる。

$$(1.5時間 \times 1本 + 1時間 \times 4本) \times 50週 = 275時間 / 年$$

#### (4) 学校教育番組

ERTUでは以前学校のクラス・ルーム向けに、テレビによる学校放送を実施していたことがある。しかし、各学校、特に地方の学校では受信設備の保守維持の面でトラブルが続出し、実際の利用が出来なくなったため、15年前に放送を打ち切ったいきさつがある。

現在ERTUで制作し放送している学校教育番組は、すべて在宅の学生を対象とし、小学校、中学校（エジプトではPreparatory schoolと云う）、高校（エジプトではSecondary school）の最終学年の学生に進学受験のための教育を行うことを目的としている。

この放送を逐次低学年の学生まで広げることがERTUの目標で、新テレビ・センター完成のあかつきには、年間500時間の学校教育番組を制作する。これらの番組もやはり在宅の学生を対称とする。

$$0.5時間 \times 4本 / 日 \times 5日 \times 50週 = 500時間 / 年$$

#### (5) 教師向け教育番組

現在のエジプト国内の多数の文盲を解消するため、特に小学校教育は重要である。現在の教師不足を解消すること、また小学・中学の学校制度が義務制になって従来の小学校の教師の資格では不十分となり、大学レベルのカリキュラムを消化することが義務づけられた。このため教師のレベルアップをはかることが緊急の課題となっている。

30分番組を毎日定時に放送することとし、年間150時間を予定する。

$$0.5時間 \times 6日 \times 50週 = 150時間 / 年$$

#### (6) 成人文盲対策番組

この番組は、主として文盲者を含む低学歴の人を対象とし、日常社会生活をする上で必要な“公衆道徳”“健康・保険”“救急医療”-----等々の知識を10分間に見易くまとめて、毎日、適当な時間帯に、或は必要ならば毎日何回か繰返して放送しようとするもので、利用度の高い番組となる。

$$10分 \times 6日 \times 50週 = 50時間 / 年$$

#### (7) 子供向け番組

ERTUは子供向け番組の強化に力を入れており、第2編に記述したとおり、第1、第2、第3チャンネルで毎日、定時に、かなり多数の子供向け番組を放送している。しかし、これらの番組の殆どは外国からのものであり、又その再放送である。

エジプトの次の時代を担う子供の教育を充実させるため、すぐれた子供向け番組を制作することは、新テレビ・センターの大きな目標の一つである。この番組には多数の子供、父兄が参加することもあり、また、バラエティーに富んだ演出手法がとられることとなるので制作には少なくとも600m<sup>2</sup>程度の大きなスタジオが必要となる。

30分番組を毎週5日放送することとし、年間合計で125時間を見込む。

$$0.5時間 \times 5日 \times 50週 = 125時間 / 年$$

#### (8) 外国語番組

国際的通信網が発達し、航空網が整備されてきて、世界が狭くなってきている。このような国際化に対応するため、どの放送機関でも外国語教育番組には力を入れており、NHKの例を見ても、英、独、仏、スペイン、ロシア、中国、韓国の7ヶ国語について講座番組を放送している。特に英語については初歩の日常会話から高度の番組まで用意されており、教育テレビの放送時刻表を見ても、毎日2時間半を外国語教育にあてている程である。

エジプトにとって外国人観光客による外貨収入は、国の重要な財源となっている。然し、一般的に外国語を喋れるエジプト人は極く一部に限られている。このような状況の中で、新テレビ・センターの完成を機に、外国語講座番組を設けることが必要である。年間150時間を予定する。

$$0.5時間 \times 6日 \times 50週 = 150時間 / 年$$



### (9) 職業教育番組

国の発展をめざし、近代化をおしすすめる上で、色々な分野で直接生産活動に携わる人達の果たす役割は大きい。

この番組はこのような生産活動に従事している人、或はこれから従事しようとする人達を対象として、技能、知識を修得させ、或は最新の情報を提供することにより、明日の活力を養うことをねらいとしたものである。

年間 150時間の放送を見込むこととし、働く人達にも見やすい視聴好適時間に放送されることが必要である。

$$0.5 \text{ 時間} \times 6 \text{ 日} \times 50 \text{ 週} = 150 \text{ 時間} / \text{年}$$

### (10) アラビア語講座

エジプトの国語はアラビア語である。中近東のアラビア語圏の諸国の中では、多種多様なアラビア語が話されているが、中でも、エジプトで話されるアラビア語が標準語とされている。この伝統ある言葉を守り育てることが国民の教育の重要な課題である。

エジプト人に対する外国語講座と同様、外国人に対するアラビア語講座の要望も大きい。

年間 150時間の番組を放送する。

$$0.5 \text{ 時間} \times 6 \text{ 日} \times 50 \text{ 週} = 150 \text{ 時間} / \text{年}$$

### (11) 成人のための文化・教育番組

この番組は、高度の教育を受けた、社会でも指導的立場にあるような人を対象として、夫々の専門分野についての最新情報や高度の知識を提供しようとするもので、できれば専門以外の人達にも興味をもって見られ、参考となるような内容とし、また、例えばエジプトの伝統・文化について掘り下げて研究・解説するというような高度の文化・教育番組とする。45分番組を週6日、年間で 225時間の放送をする。

$$45 \text{ 分} \times 6 \text{ 日} \times 50 \text{ 週} = 225 \text{ 時間} / \text{年}$$

### 3-3 放送計画

新テレビ・センターの建設工事は第1期および第2期に分けて行われる予定で、第1期工事が完成するまでに4年、第1期完成後直ちに第2期工事にかかるとして、工事完了までに、またさらに4年の年月を要する。

ここでは、第1期工事完成後制作すべき番組、第2期工事完成後に制作される番組について区分けし、さらにそれらの番組がどのチャンネルで放送されるかを検証する。

#### 3-3-1 第1期工事完成後制作される番組

3-2 項に記述した各番組は、ERTUにとってどれも必要度の高いものであるが、第1期工事完成後はその中でも優先して放送されるべき番組から制作を開始する。

第1期工事完成後制作される番組、放送されるチャンネルは次のとおりとする。

##### (1) ドラマ形式による朝のシリーズ番組

年間 100時間 (20分×6日×50週) ----- 第1チャンネル

##### (2) ドラマ形式による特別教育・教養番組

年間 275時間で計画されているもののうち  
まづ 175時間 (毎週 1.5時間 + 1時間×2) ----- 第1、第2  
チャンネル

##### (3) 学校教育番組

年間 500時間で計画されているもののうち  
まづ 250時間を制作する (30分×2本×5日×50週) --- 第3チャンネル

##### (4) 教師向け番組

年間 150時間 (30分×6日×50週) ----- 第3チャンネル

##### (5) 成人教育のための10分間番組

年間 50時間 (10分×6日×50週) ----- 第1チャンネル

##### (6) 子供向け番組

年間 125時間 (30分×5日×50週) ----- 第2チャンネル

(7) 外国語番組

年間 150時間 (30分×6日×50週) ----- 第2チャンネル

(8) 職業教育番組

年間 150時間 (30分×6日×50週) ----- 第1チャンネル

以上、第1期工事完成の時点で、年間合計1,150時間の番組を制作する。

3-3-2 第2期工事完成後制作される番組

第2期工事完成後は、上記第1期の番組を引き続き制作するとともにさらにつぎのような番組を制作する。

(1) ドラマ形式による夜間の教育・教養番組

年間 225時間 (45分×6日×50週) ----- 第2チャンネル

(2) ドラマ形式による特別教育・教養番組

第1期で制作したものに加えてさらに  
年間 100時間を制作する ----- 第1、第2チャンネル  
(毎週1時間×2本×50週)

(3) 学校教育番組

第1期で制作したものに加えてさらに  
年間 250時間を制作する ----- 第3チャンネル  
(30分×2本×5日×50週)

(4) アラビア語講座番組

年間 150時間 (30分×6日×50週) ----- 第2チャンネル

(5) 知識人向け番組

年間 225時間 (45分×6日×50週) ----- 第3チャンネル

以上、第2期工事の部分で、計950時間の番組を制作し、第1期、第2期を合わせた新テレビ・センター全体で、年間2,100時間の番組が制作されることとなる。(表3-1 参照)

またこれらの番組が、夫々のチャンネルでどのような時間帯で放送されるか試案を表3-2、3-3、3-4に示す。

Table 3-1

DEMARICATION OF PROGRAMS TO PHASE I & II

	Phase I (hours)	Phase II (hours)
Dramatized Educational Program	<p>Special Educational (ST-No.1) 175</p> <p>Morning Serial (ST-No.2 &amp; No.6) 100</p> <p style="text-align: right;">275</p>	<p>Special Educational (ST-No.1 &amp; No.3) 275</p> <p>Morning Serial (ST-No.2 &amp; No.6) 100</p> <p>Evening Serial (ST-No.4 &amp; No.5) 225</p> <p style="text-align: right;">600</p>
General Program	<p>Children (ST-No.6) 125</p> <p>School Education (ST-No.3) 250</p> <p>Teacher's &amp; Short Prog. for Adult (ST-No.4) 200</p> <p>Vocational Foreign Language (ST-No.5) 300</p> <p style="text-align: right;">875</p>	<p>Children (ST-No.6) 125</p> <p>School Education (ST-No.7 &amp; No.8) 500</p> <p>Teacher's &amp; Short Prog. for Adult (ST-No.9) 200</p> <p>Vocational, Foreign Language National Language (ST-No.10 &amp; No.11) 450</p> <p>Sophisticated Culture (ST-No.12) 225</p> <p style="text-align: right;">1,500</p>
Total	6 Studios 1,150	13 Studios 2,100

DEVELOPMENT PLAN OF BROADCASTING PROGRAM (I) TABLE

Table 3-2

	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	
7:00	Vocational Prog (Phase I)							7:00
8:00	Morning Serial Drama (Phase I)							8:00
9:00								9:00
10:00								10:00
11:00								11:00
12:00	Morning Serial Drama (Phase I) Repeat							12:00
13:00								13:00
14:00								14:00
15:00								15:00
16:00								16:00
17:00								17:00
18:00								18:00
19:00								19:00
20:00	Adult Short Prog (Phase I)							20:00
21:00								21:00
22:00								22:00
23:00	Special Drama (Phase I)					Special Drama (Phase I)	Special Drama (Phase I)	23:00
24:00								24:00

DEVELOPMENT PLAN OF BROADCASTING PROGRAM (2) TABLE

Table 3 - 3

	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	
6:00	Arabic Language Study (Phase I)							6:00
7:00	Foreign Language (Phase I)							7:00
8:00								8:00
9:00								9:00
10:00								10:00
11:00								11:00
12:00								12:00
13:00								13:00
14:00								14:00
15:00								15:00
16:00								16:00
17:00								17:00
18:00	Children		Children's Prog (Phase I)					18:00
19:00								19:00
20:00	Evening Serial Drama (Phase I)							20:00
21:00								21:00
22:00								22:00
23:00		Special Drama (Phase I)					Special Drama (Phase I)	23:00

DEVELOPMENT PLAN OF BROADCASTING PROGRAM (3) TABLE

Table 3-4

	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	
6:00								6:00
7:00								7:00
8:00								8:00
9:00								9:00
10:00								10:00
11:00								11:00
12:00								12:00
13:00								13:00
14:00								14:00
15:00								15:00
16:00								16:00
17:00								17:00
18:00								18:00
19:00								19:00
20:00								20:00
21:00								21:00
22:00								22:00
23:00								23:00

	School Education (Phase I)
	School Education (Phase I)

	Teacher's Prog (Phase I)
	Sophisticated Culture Prog for Adult (Phase I)

### 3-4 番組制作のスケジュールおよび要員

前述のような、新テレビ・センターで制作される番組は、その制作形態から見て、つぎのように大きく2種類に分けられる。

- a. ドラマ化された番組
- b. 一般教育、教養番組

ここでは、これらの番組を制作するのに必要なテレビスタジオの数およびその規模について述べ、さらにそれらのスタジオがどのように使われるのかを例示する。

#### 3-4-1 必要となるテレビ・スタジオの数および規模

第3-1-2項で述べたとおり、新テレビ・センターでは、ドラマ化された番組については1日1スタジオで30分の番組内容を制作する。

表3-6 にスタジオでのドラマ制作の1ヶ月間の代表的なモデルを示すが、1ヶ月間のうち大道具および照明のセッティング、修正のため6日～7日が費やされる。番組制作作業は種々の理由で、常に変動を伴うが、実際に番組制作（収録）ができるのは1ヶ月間のうち、20日前後と見積り、約10時間分の番組収録が可能である。

スタジオは年間0.5ヶ月程度の機器保守整備のための時間が必要であり、番組制作には11.5ヶ月が使われるとすると、1スタジオで年間115時間の番組制作が出来ることとなる。従って、600時間のドラマ化番組を制作するためには、

$$600 \div 115 = 5.2$$

即ち、6室のスタジオが必要となる。

一方、一般番組の場合、1日1時間の番組を収録するとして表3-6 に示すとおり、1スタジオで年間200～250時間、平均的に225時間の制作が可能で、年間1,500時間を制作するためには、

$$1,500 \div 225 = 6.7$$

即ち、7スタジオが必要となり、新テレビセンターでは合計13室のスタジオが必要となる。



これらのスタジオの大きさは、ドラマ化された番組を制作する6室については、600㎡とし、そのうち1室は特別番組制作を考慮して900㎡のものを用意する。

一般番組制作用スタジオ7室については300㎡とする。

### 3-4-2 ドラマ化された番組の制作

#### (1) 番組制作

ドラマ化された番組の場合、通常、多数の大道具セットが使われる。このため広いスタジオが必要となり、600㎡以上のサイズのスタジオが主としてドラマ化された番組の制作に使われる。

まず、スタジオでの番組収録に先立って、大道具がスタジオ内にセットされるが、この作業に3～4日を要する。大道具が完成したあと1日かけて照明のセッティング作業が行われる。照明作業が終るとその翌日から実際の番組制作作業が始まる。ドラマ化された番組の場合、スタジオでのVTR収録は通常「カット撮り」の手法により行われ、あとでVTR編集されて番組として完成することとなるが、表3-5,3-6(1),(2)に示したとおり、スタジオでのVTR収録は1ヶ月のうち、20日～22日かけて行われることとなる。この間2日或は3日は大道具、照明等の手直しのためスタジオ収録は中断される。

#### (2) 番組部門の要員

ドラマ化された番組を担当するプログラムディレクター(PD)は、アシスタント約3名とともに、1つの番組制作を担当し、1ヶ月間のスタジオ制作作業に従事し、そのあと、VTR編集等番組を完成する作業に入る。番組完成後、次の番組制作のための準備に入るが、その模様の概略を表3-6に示す。この表では、PDとアシスタントから成る1つの制作グループは、スタジオ作業終了後、編集、次の番組の準備等のあと、3ヶ月後には再び番組制作のためスタジオに現われることを示している。

このようにして、1つのスタジオは、4つの番組制作グループのローテーションによって、年間を通して効率よく番組制作に使われることとなる。

TABLE OF STUDIO ARRANGEMENT FOR PHASE I

Table 3-5

Studio	Month			
	1st Week	2nd Week	3rd Week	4th Week
NO 1	Special Feature Prog 1 & 2 Decor → LS ←	(1 <sup>H</sup> x 2 <sup>Prog</sup> x 50 <sup>W</sup> ) 6D → LS ←	6D → LS ←	6D → * * *
2	Special Feature Prog 3 Decor → LS ←	(1.5 <sup>H</sup> x 50 <sup>W</sup> ) 7D → LS ←	7D → Decor →	Morning Serial Prog (20 <sup>Min</sup> x 6 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> ) LS ← 6D →
3	School Education (0.5 <sup>H</sup> x 2 <sup>Prog</sup> x 50 <sup>W</sup> ) 5D → *	5D → *	5D → *	5D → *
4	Teachers Prog (0.5 <sup>H</sup> x 6 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> ) & Short Prog (10 <sup>Min</sup> x 6 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> ) TC 3D → * ST ←	TC 3D → * * ST ←	TS 3D → * ST ←	TC 3D → * * ST ←
5	Foreign Language & Vocational * FL 3D → VO 3D →	* FL 3D → VO 3D →	* FL 3D → VO 3D →	* FL 3D → VO 3D →
6	Morning Serial Prog Decor → LS ←	Childrens Prog (0.5 <sup>H</sup> x 5 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> ) 5D →	Morning Serial Prog Decor → LS ←	Childrens Prog (0.5 <sup>H</sup> x 5 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> ) 5D →

Prog Production Schedule: Phase I

- 1 Special Feature Prog 1 & 2 0.5<sup>H</sup> x 18<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 100 ¼
- 2 Special Feature Prog 3 0.5<sup>H</sup> x 14<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 75 ¼
- 3 Morning Serial Prog 0.5<sup>H</sup> x 18<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 100 ¼
- 4 Childrens Prog 1<sup>H</sup> x 6<sup>D</sup> x 25<sup>W</sup> = 130 ¼
- 5 School Education 1<sup>H</sup> x 5<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> = 250 ¼
- 6 Teachers Prog 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> = 150 ¼
- 7 Short Prog 1<sup>H</sup> x 1<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> = 50 ¼
- 8 Foreign Language 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> = 150 ¼
- 9 Vocational 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> = 150 ¼

TABLE OF STUDIO ARRANGEMENT FOR PHASE II

Table 3-6(1)

Studio	Month			
	1st Week	2nd Week	3rd Week	4th Week
NO	Special Feature Prog 1 & 2 (1 <sup>H</sup> x 2 <sup>Prog</sup> x 50 <sup>W</sup> )			
1	Decor LS 6D	LS 6D	LS 6D	* * * *
2	Special Feature Prog 3 (1.5 <sup>H</sup> x 50 <sup>W</sup> )			
	Decor LS 7D	LS 7D	Morning Serial Prog Decor LS 7D	Serial Prog Decor LS 6D
3	Special Feature Prog 4 & 5 (1 <sup>H</sup> x 2 <sup>Prog</sup> x 50 <sup>W</sup> )			
	Decor LS 6D	LS 6D	LS 6D	* * * *
4	Evening Serial Prog (45 <sup>Min</sup> x 6 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> )			
	Decor LS 6D	LS 6D	LS 5D	LS 3D
5	Evening Serial Prog			
	Decor LS 6D	LS 6D	LS 5D	LS 3D
6	Morning Serial Prog (20 <sup>Min</sup> x 5 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> Children's Prog (0.5 <sup>H</sup> x 5 <sup>D</sup> x 50 <sup>W</sup> )			
	Decor LS 6D	Decor LS 5D	Morning Serial Prog Decor LS 6D	Children's Prog Decor LS 5D

Prog Production Schedule : Phase I

- 1 Special Feature Prog 1 & 2 0.5<sup>H</sup> x 18<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 100 <sup>H</sup>/<sub>4</sub>
- 2 Special Feature Prog 3 0.5<sup>H</sup> x 14<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 75 <sup>H</sup>/<sub>4</sub>
- 3 Special Feature Prog 4 & 5 0.5<sup>H</sup> x 18<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 100 <sup>H</sup>/<sub>4</sub>
- 4 Morning Serial Prog 0.5<sup>H</sup> x 18<sup>D</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 100 <sup>H</sup>/<sub>4</sub>
- 5 Evening Serial Prog 0.5<sup>H</sup> x 20<sup>D</sup> x 2<sup>st</sup> x 11.5<sup>M</sup> = 225 <sup>H</sup>/<sub>4</sub>
- 6 Children's Prog 1<sup>H</sup> x 6<sup>D</sup> x 25<sup>W</sup> = 130 <sup>H</sup>/<sub>4</sub>

TABLE OF STUDIO ARRANGEMENT FOR PHASE II

Studio	Month			
	1st Week	2nd Week	3rd Week	4th Week
NO	School Education (0.5 <sup>H</sup> x 4 <sup>Prog</sup> x 5 <sup>D</sup> x 5 <sup>0</sup> )			
7	5D → *	5D → *	5D → *	5D → *
8	School Education			
	5D → *	5D → *	5D → *	5D → *
9	Teacher's Prog (0.5 <sup>H</sup> x 6 <sup>P</sup> x 5 <sup>0</sup> W)	Short Prog		
	TC 3D → * ST → *	TC 3D → * ST → *	TC 3D → * ST → *	TC 3D → * ST → *
10	Foreign Language & Vocational (0.5 <sup>H</sup> x 6 <sup>D</sup> x 5 <sup>0</sup> W)			
	FL 3D → VO 3D → *	FL 3D → *	FL 3D → VO 3D → *	FL 3D → *
11	Arabic Language & Vocational (0.5 <sup>H</sup> x 6 <sup>D</sup> x 5 <sup>0</sup> W)			
	NL 3D → *	NL 3D → VO 3D → *	NL 3D → *	NL 3D → VO 3D → *
12	Sophisticated Culture Prog (4.5 <sup>Min</sup> x 6 <sup>D</sup> x 5 <sup>0</sup> W)			
	6D → *	6D → *	6D → *	6D → *
13	Commercial & Urgent Use			
	* * * * *	* * * * *	* * * * *	* * * * *

Prog Production Schedule : Phase II

- 1 School Education 1<sup>H</sup> x 5<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> x 2<sup>ST</sup> - 500 1/4
- 2 Teachers Prog 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> - 150 1/4
- 3 Short Prog 1<sup>H</sup> x 50<sup>W</sup> - 50 1/4
- 4 Foreign Language 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> - 150 1/4
- 5 Vocational 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> - 150 1/4
- 6 Arabic Language 1<sup>H</sup> x 3<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> - 150 1/4
- 7 Sophisticated Culture Prog 45<sup>Min</sup> x 6<sup>D</sup> x 50<sup>W</sup> - 225 1/4

### 3-4-3 一般教育・教養番組

#### (1) 番組制作

ドラマ化された番組とは異り、一般教育、教養番組では、「カット撮り」の手法は使われず、原則として、番組の初めから終わりまでを通して収録する「流し撮り」の手法が使われる。

大規模な大道具を必要としないので、通常は 300m<sup>2</sup>級のスタジオで制作可能である。表3-5 の例では、各スタジオでは、毎日30分番組を2本ずつ制作するのを基準としているが、勿論、番組の内容によっては、1日に1本しか制作できないこともあるし、3～4本続けて制作される場合もあろう。

この表に示す第13スタジオは、特に定まった番組を割り当てていないが、新テレビ・センターに設けられる13室のスタジオの予備として確保されている。緊急番組の制作、故障したスタジオの緊急代替用、として必要不可欠であるが、その他にも要員の訓練用、試作番組の制作用あるいは、将来、設備の更新時の予備スタジオ……等々として、多目的に活用されることになる。例えば、コマーシャル番組制作用としても使われる。なお、この表中\*印で示した部分は、特別番組（例えば、2室以上のスタジオを結んで1本の番組を制作する……等）の制作、或は番組の手直し、素材の収録……等に対応できるよう考慮したものである。空白の部分は主として、設備の保守整備、技術的なテスト等を実施することを考慮したものである。

#### 3-4-4 第1期および第2期のスタジオ運用

前述（第3-1-2項）のとおり、新テレビ・センターは2期に分けて建設される。テレビスタジオは第1期では900㎡および600㎡の大・中型スタジオが6室完成し、第2期で300㎡の小型スタジオが7室完成する計画である。

一方、制作される番組は第3-3項に記載したとおり、第1期のテレビ・スタジオでは1,150時間が、第2期のスタジオでは950時間が制作されることになっている。

第3-7表に、そのためのスタジオ運用の状況を示してある。第1期、600㎡のスタジオを使って制作される一般教育・教養番組は、第2期完成後は300㎡の方へ移されることになる。

本来ならば300㎡の小型スタジオで制作されるべき一般教育、教養番組が第1期完成時点から第2期完成時点までの間暫定的に600㎡の中型スタジオで制作されることになるが、これは大は小を兼ねるという意味では問題はない。

この場合、数番組分の大道具をセットして、1日に3～4番組を制作する等、効率的な番組制作を行い、より多くの番組が制作されるような運用についての工夫がなされるべきである。

#### 3-5 フィルム番組の将来計画

現在のERTUのテレビ番組の中で、フィルム番組は大きな位置を占めている。ERTUは1984年度、47時間のフィルム番組を制作し、これらの番組はアラブ諸国の各放送機関にも提供された。現在ERTUはフィルム番組制作のためのスタジオとか現像設備を持ってないため、新テレビ・センターにはこれらの設備を備えるべきだとの議論も出され、討議されたが、“フィルムのビデオ化”という世界のテレビ界のすう勢から見て新テレビ・センターにはフィルム現像設備は不要という結論となった。

USAGE OF PROGRAM PRODUCTION STUDIO AT THE TERM OF PHASE I & PHASE II Table 3-7

Studio - Size	Phase I		Phase II	
	Usage	Prod. Hours	Usage	Prod. Hours
NO. 1 - 900m <sup>2</sup>	Dramatized Educational Prog.	100	Dramatized Educational Prog.	100
NO. 2 - 600m <sup>2</sup>	Ditto	105	Ditto	105
NO. 3 - 600m <sup>2</sup>	General Prog.	250	Ditto	100
NO. 4 - 600m <sup>2</sup>	Ditto	200	Ditto	225
NO. 5 - 600m <sup>2</sup>	Ditto	300	Ditto	
NO. 6 - 600m <sup>2</sup>	Dramatized / General Educational / Prog.	195	Dramatized / General Educational / Prog.	195
NO. 7 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	General Prog.	500
NO. 8 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	Ditto	
NO. 9 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	Ditto	200
NO. 10 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	Ditto	450
NO. 11 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	Ditto	
NO. 12 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	Ditto	225
NO. 13 - 300m <sup>2</sup>	_____	_____	Commercial Prog.	(200)
Total	Six Studios	1,150	Thirteen Studios	2,100

最近のエレクトロニクス技術の進歩により、従来、小型の16mmフィルム・カメラに頼っていた、屋外のロケ撮映にも、小型のテレビ・カメラとVTRが一体化されたビデオ機材によるEFP制作(Electronic Field Production)が広く使われる傾向にあり、フィルムにとって代りつつある。また、高品位テレビ(HDTV)の開発により、劇場用映画でさえ、まずテレビ・カメラで撮映され電子技術を使ってビデオ編集され、そのあとフィルムに変換される技術は可能となっている。

ビデオの方が画質もよく、編集が効果的に出来るうえ、フィルムに比べて制作効率が格段に向上する。

このような背景から、新テレビ・センターには、フィルム現像設備および関連設備は不要との結論に達したものであるが、一応、敷地のレイ・アウト・プランの中には、フィルム現像設備の場所を画しておくこととした。

### 3-6 制作された番組の二次利用およびマーケティング

ERTUはエジプトにおける唯一のテレビ放送機関であり、新テレビ・センターで制作された番組はすべてERTUの放送網を通じて全国の視聴者に提供され、国民の学識向上に役立ち、生活水準の向上に寄与することとなる。

新テレビ・センターで制作された番組は、放送された後、ERTUの貴重な文化財産として保存されるが、この貴重な財産をただ倉庫の中に眠らせておかないで、エジプト国内だけでなく、広く海外諸国にも提供され、活用されることが望ましい。

現在でも、ERTUで制作された番組の多くが、近隣のアラブ諸国のテレビ放送機関に提供され放送されているが、これら諸国とエジプトの間には言葉の障壁もなく比較的スムーズに番組交換が可能である。また、これらアラブ諸国では、テレビ放送もまだ発展段階にある国が殆どで、これから、放送時間を拡充し、チャンネルを増やしてテレビ放送を強化しようとしている。ERTUにとっては、将来、番組の販路拡張の余地が十分残されている訳である。

現在でもカイロ放送センターの番組コピー・センターでは、これらアラブ諸国の需要に応えるべく、24時間体制で、頒布用番組のコピー作業に追われている状況にあり、新テレビ・センターが完成して、さらに質の高い番組が制作されるようになる



その多くが海外の放送機関に提供され、有効に活用されることが期待されている。一方番組を頒布することによって得られる対価は新テレビ・センターの大切な収入源となり、その独立採算に大きく寄与することとなろう。

また、一方で番組販売は、国外の放送機関だけでなく、国内の一般視聴者も対象となる。

エジプトでは、家庭用カセットVTRの普及も年ごとに加速され、将来、めざましい普及が予想される。

現在、ERTUの学校教育番組は、専ら在宅の学生を対象とし学校のクラス・ルームでの利用はされていないことは前述のとおりであるが、テレビの教育番組の特質から見て、クラス・ルームでの利用が、考慮されるべきである。従来の教育方法では、教科書を通し、先生の言葉を通し、逐語的表現(Verbal description)の形で教えられるが、テレビを通しての視聴覚教育では知識は、まず感覚、印象の形で与えられる。この感覚、印象はそのあと先生の言葉によって整理され、補足されて知識として覚えこまれ、教育効果が高まる。

このように学校教育番組にしても、一般教育教養番組にしても、人の視聴覚に訴える力は大きく、新テレビ・センターで制作された番組もカセットVTR 或は、他の視聴覚教材として、広く頒布され、利用されることが望ましい。

### 3-7 コマーシャル番組

エジプトの放送法規によれば、コマーシャル番組はERTUで制作されるべきであると規定されている。しかし、カイロ放送センターの現状では、スタジオおよび設備の不足のためERTUでは制作されていない。

現在、ERTUから放送されているスポット・コマーシャルは年間 275時間に及ぶが、その全部が、外部機関で作られたものである。将来、新テレビ・センターが完成すれば、ERTUとしては、可成りのスポット・コマーシャルをここで制作したいと考えている。

さし当り、30秒コマーシャルを年間 400本制作することを目標とするが、前述(3-4-2.(1))のとおり、300m<sup>2</sup>級のスタジオ1室および数台の EFP機材がこの制作にあてられる。

## 第4編

### 番組制作設備



## 第4編 番組制作設備

### 4-1 スタジオの規模、使用目的

本報告第3編記載のとおり、新テレビセンターでは、年間600時間のドラマ化教育番組、及び1,500時間の一般教育、教養番組の計2,100時間の番組を制作する必要がある。

しかも、ERTUから放送される番組はエジプト国民、社会の要望に応じて、さらに質の高いものとするのが要求される。

この目標を達成するために、新テレビセンターでは最新の機材、設備を駆使し、日常、より効果的、効率的な運用がなされなければならない。

#### 4-1-1 スタジオの必要数及び大きさ

上記年間2,100時間の番組制作のため13室のテレビ・スタジオが必要となる。番組制作形態から見てこれらのスタジオの大きさは下記のとおり区分される。

大型	(900㎡級)	.....	1室
中型	(600㎡級)	.....	5室
小型	(300㎡級)	.....	7室
			計 13室

大型のスタジオおよび中型のスタジオは、ドラマ番組を制作できる機能を持ち、主として教育ドラマ制作用として、また小型のスタジオは、主として一般教育教養番組制作用として使われる。

その他に、新テレビ・センターでは、多様性に富んだ番組制作手法に対応するため、次に記すような各種タイプのスタジオが必要となる。

音声録音スタジオ	.....	3室
音声ダビングスタジオ	.....	5室
汎用スタジオ	.....	3室
運行スタジオ	.....	1室

#### 4-1-2 音声録音スタジオ

新テレビ・センターはテレビ番組制作センターとしての機能を総合的に発揮できるように設計されるべきで、その一環として音声録音スタジオが必要である。音響効果、音楽効果は、特に番組効果を高める上に不可欠であり、バラエティある音響録音に対応できる設備を整えておくことが望ましい。

新テレビ・センターには、下記 3室の音声録音スタジオが必要である。

- (1) 主として音楽録音用として …… (160 m<sup>2</sup>級) 2室
- (2) 主として音響効果録音用として …… (120 m<sup>2</sup>級) 1室

#### 4-1-3 汎用スタジオ

番組制作手法の多様性に対応するため、また、特にEFP 番組制作の場合のポスト・プロダクションのため、汎用スタジオが必要である。

VTR 編集の前後の段階で、例えばDVE (デジタル・ビデオ・エフェクト) や、コンピュータグラフィックを使って映像処理するとか、インサートするような場合、この汎用スタジオを使うことにより、極めて効果的、効率的に制作作業が進められる。

3室の汎用スタジオが必要とされる。

#### 4-1-4 運行スタジオ

— 4-5項参照 —

#### 4-1-5 大道具のためのフロア面積

各国、各地の従来のテレビ・スタジオの例を見ると、大道具製作、保管のためのスペース不足が、番組制作作業の隘路となっている状況が極めて多い。現カイロ放送センターでもこの例にもれず、大道具作業のためのスペース不足が大きな問題となっており、ERTUでも、作業場増築などの対策を講じてはいるが、現在の敷地、建物の状況からは所詮は焼石に水である。(根本的な解決策とはなり得ない)

幸い、シックス・オクターバー・シティの新テレビ・センターでは、カイロの現放送センターとは較べものにならぬ程、広大な敷地面積が確保されている。この有利な条件を生かして新テレビ・センターでは、大道具作業のためにつきのような基準で、必要かつ十分なスペースを確保しておくことが望ましい。

(1) 大・中型スタジオの場合：スタジオ床面積の約 2倍

(2) 小型スタジオの場合：スタジオ床面積の約 1.5倍

このスペースは主として大道具の組立・保管のために使われる。

このスペースの他に、大道具製作のための施設・スペース（ワーク・ショップ）が必要である。

#### 4-1-6 視聴室

新テレビ・センターは番組制作センターであり、ここで制作された番組は、種々の目的のため、関係者、或はV.I.P.により視聴される。この目的のためのオーディション・ルームを設備しておく必要がある、この部屋は、番組コンクール、要員の訓練、番組の研究……等々番組制作センターとしての機能を果たす上で有効に活用されることとなろう。

1室は 200m<sup>2</sup>他は 100m<sup>2</sup>程度の計 2室をこのための部屋として用意する必要がある。

ERTUでは、完成した番組を放送する前に必ずチェックする体制をとっており、このため、上記オーディション・ルームの他に、さらに5室の小さい視聴室（モニター・ブース）が必要である。

#### 4-1-7 各スタジオと主調整室間の接続

新テレビ・センターでは、時に（特別番組等）、2室以上のスタジオを結んで一本の番組を制作することがある。このため、全てのスタジオは、主調整室経由で相互に接続され、多元番組制作の機能を備えておく必要がある。

#### 4-1-8 コマーシャル番組の制作設備

新テレビ・センターでは、第Ⅱ期完成後、年間 400本のスポット・コマーシャル（30秒スポット）が制作されると見込まれる。

スポット・コマーシャルは、番組の性格上、制作にあたっては、スタジオ内で制作されるもの、屋外で制作されるもの、特殊効果を使用したもの…等々、制作形態も様々であるが、現時点では一応、必要設備として小型テレビ・スタジオのうちの一室と、数系統の EFP設備をスポット・コマーシャル制作用として割り当てを見込んでおく。

それに伴う VTR編集装置、音声ダビング・スタジオ等も関連して割り当てを見込んでおく必要がある。

#### 4-2 各スタジオ、映像、音声設備の機能

##### 4-2-1 スタジオ副調整室の位置

全テレビ・スタジオの副調整室の位置は、スタジオ・フロアと同レベルに置くこととする。このアイデアはJICAチームによって示唆され提案された。ERTU側もまたその日常運用の永い経験から、完全に意見の一致を見た。これによって制作スタッフにとって、スタジオフロアと副調整室のアクセスが良くなり、効率的な制作運用ができる。

##### 4-2-2 テレビ・スタジオの照明電力容量

技術の進歩により、カラーテレビ・カメラの感度も著しく向上した。テレビ・スタジオの照明電力容量としては、スタジオの実質有効面積  $1\text{m}^2$  当り  $0.8\text{kw}$  の電力を基準とすれば充分である。

但し、大型のスタジオおよび、小型スタジオのうち1室については、将来の発展性を考慮して（高品位テレビジョン） $1\text{m}^2$  当り  $1\text{kw}$  の基準で設備しておくこととする。

#### 4-2-3 全テレビ・スタジオに対する照明電力容量

新テレビ・センターのテレビ・スタジオ全室に対する、必要な照明電力としては、各スタジオ照明電力容量合計の80%を必要受電容量と見込む。この数字は、全スタジオの稼働状況、稼働率から想定される。

例えば、全スタジオが全て同時に、全負荷で稼働するようなケースはなく、また、スタジオの床、全面積が番組制作の全時間を通じてフルに使われる、ということも極めて稀である。このような状況から、JICAチーム及びERTU側の過去の経験によってこの数字が算出された。

#### 4-2-4 停電時の非常用発電機による電力供給

新テレビ・センターには、停電に備えて非常用発電機が設置される。非常用発電機の発電容量には限度があり、全ての施設に電力を供給することは不可能であるが、少なくとも、T.O.C.（主調整室およびその周辺の運行機器室）については、全面的に、また、テレビスタジオ、音声スタジオ等、番組制作スタジオでは、或る程度の番組制作ができるよう非常用発電機により、電力が供給されるべきである。

なお詳細は、第5編を参照されたい。

#### 4-2-5 テレビ・スタジオ・カメラ

エレクトロニクス技術の進歩により、カラーテレビ・カメラも最近では各種の自動調整機能を持ったカメラが開発されている。このような最新型カメラでは、運用も容易なうえ、動作状態も極めて安定しており、故障も年間で2～3回以内にとどまっている。

新テレビ・センターでは、総計で数10台のカラー・テレビ・カメラが使われる予定で、保守、および運用面から見て、JICAチームとしては、カメラは新テレビセンター全体で、型式を統一するとか、標準化することをリコメンドしたい。



#### 4-2-6 EFP機材 ( Electronic Field Production )

EFP ——従来のフィルムに代り、小型テレビ・カメラでロケ撮像し番組を作る——機材は、最近の著しい技術進歩により、カメラとVTR が一体となった携帯型小型機材が開発されている。

そのような小型機材といえども、スタジオの標準機材と変らない程の良い画質が得られ、動作も安定し、信頼度も高くなっており、屢々スタジオ・カメラと組合わされて、番組制作に使われる程である。数回のビデオ・コピーを繰返したあとでも、画質の劣化はない。

この EFP機材についてもスタジオ・カメラ同様、機種の統一、標準化をはかることが、日常の運用 (ポストプロダクション作業を含む) 保守を容易にする上から重要なことである。

#### 4-2-7 スタジオ照明、懸架装置

スタジオ照明の懸架装置については、種々の方式が運用面、コスト面から検討され討議された。その結果、全スタジオについて、電動バトン方式 (Mortorized hoist system) を採用することが、適当と判断された。

照明器具はこのバトンからさらに、パンタグラフ或は、テレスコピックハンガーを用いて吊り下げられる。

#### 4-2-8 子供教育番組のためのスタジオ設備

子供教育番組は、新テレビ・センターで制作される番組の中でも重点がおかれるものの一つである。

多数の参加者がスタジオに訪れ番組に参加することとなる。このため、中型スタジオの一室をこの番組制作に割り当てることとし、このスタジオには格納可能な参加者席 (観客席) の設備を設けることとする。このスタジオが他の番組制作に使用される時は、この席は折りたたんで、容易にスタジオ壁面に収納されるような設備とする。

#### 4-2-9 各テレビ・スタジオの有効高

大型スタジオでは、9m以上の有効高（サイクロラマの高さに相当）が必要である。中・小型スタジオについては、8mの有効高を確保する。

#### 4-2-10 タイトル装置

各テレビ・スタジオには、タイトル、字幕をインサートするための装置として、アラビア語（出来れば英語も）のビデオ・タイプライターとそのインサート装置が必要である。

#### 4-2-11 スタジオVTR と集中VTR

各テレビ・スタジオには、そのスタジオでの番組制作用として、各々2台のVTRを設備する。

それ以上のVTRを必要とするような場合には、VTRセンターに設備された集中機器としてのVTRが使用可能である。

このため、VTRセンターと、各スタジオは、主調整室を通して相互に接続できるような設備とする。

#### 4-2-12 テレシネ装置

テレシネ装置を各スタジオに分散配置する必要はない。もし、テレビ・スタジオで、フィルムの映像を使用したい場合は、テレシネ・センターにあるテレシネ装置をスタジオに接続して使用する。（主調整室経由）

テレビ番組制作において、フィルムの利用は年々減ることが予想される。最近の世界のテレビ界の傾向として、たとえ、フィルム素材を使う場合でも、事前にビデオ・テープに変換したうえ、ビデオ素材として、番組制作に使われるすう勢にある。

番組制作に使われるフィルム素材も、古い記録フィルムとか外国から入って来た、素材とか限られたものになると思われる。

従って、新テレビ・センターでは、将来を見通したうえ、余り過大なテレビ設備を導入すべきではない。

各スタジオの規模、及びその設備を第4-1表に示す。

#### 4-3 EFP 機材、VTR 編集装置、および、ポスト・プロダクションのための設備

##### 4-3-1 EFP 機材

テレビ番組制作の中で、EFP による番組素材の活用はフィルムにとって代って年々増大の方向にある。

どの番組の制作者、演出者も常に、番組に変化を求め、より魅力がある番組づくりに努力している。その一つの有効な手段がEFP を使うことである。

第I期の終りの時点で、番組内容の30%はEFP に頼ることになると予想される。

このために必要なEFP 機材として20式を見込む。第II期の終りには、その必要台数は40式になるであろう。

一般的に、EFP 制作は1台のカメラ、VTR によるシングル方式で行なわれ、EFP 制作の担当者は、機材を乗用車等に積んで携行し、機動的に取材行動する。これがEFP のすぐれた特徴でもある。しかし、時には2台以上のEFP カメラを使って取材した方が効率的な場合もあり、この様なニーズに対応するため2台の EFP車を用意しておく必要がある。各 EFP車には、発電機とか小型ビデオ・スイッチャー、音声ミキシング装置を搭載しておく。

##### 4-3-2 VTR 編集装置

VTR 編集の方法として、JICAチームは「オフ・ライン編集方式」を提案した。この方式の概要説明を第4-1図に示す。

VTR の編集装置、ポスト・プロダクション装置の必要台数を算定するための一つの目安として、次のような基準が考えられる。

コピーVTR	: EFP 3~4 系統に対して1式
PD編集装置	: EFP 1系統に対して1式
ECS VTR 編集装置	: EFP 3~4 系統に対して1式

THE SCALE OF THE STUDIOS AND THEIR FACILITIES

Table 4-1

st.	Size	Usé	Cam	VTR	Aud.	L-Cap.	Eff. Height	Remarks
No. 1	900m <sup>2</sup>	Drama	4+2	2	36 ch.	900 KW	9m	
No. 2	600m <sup>2</sup>	Drama	3+1	2	24 ch.	450 KW	8m	
No. 3	600m <sup>2</sup>	Drama	3+1	2	24 ch.	450 KW	8m	
No. 4	600m <sup>2</sup>	Drama	3+1	2	24 ch.	450 KW	8m	
No. 5	600m <sup>2</sup>	Drama	3+1	2	24 ch.	450 KW	8m	
No. 6	600m <sup>2</sup>	Drama/ General	3+1	2	24 ch.	450 KW	8m	
No. 7	300m <sup>2</sup>	General	3+1	2	24 ch.	300 KW	8m	
No. 8	300m <sup>2</sup>	General	3+1	2	24 ch.	250 KW	8m	
No. 9	300m <sup>2</sup>	General	3+1	2	24 ch.	250 KW	8m	
No.10	300m <sup>2</sup>	General	3+1	2	24 ch.	250 KW	8m	
No.11	300m <sup>2</sup>	General	3+1	2	24 ch.	250 KW	8m	
No.12	300m <sup>2</sup>	General	3	2	16 ch.	250 KW	8m	
No.13	300m <sup>2</sup>	General	3	2	16 ch.	250 KW	8m	
Conti	100m <sup>2</sup>	Contin- uity	2	3	16 ch.	50 KW	5m	
Utility 1-3	60m <sup>2</sup>	Post Prod.	-	3	16 ch.	-	-	including cont.RM
Dubbing 1-5	60m <sup>2</sup>	Audio/ Lip Sync	-	-	16 ch. 8ch MATR	-	-	5 Rooms including cont.RM
Sound 1	160m <sup>2</sup>	Music	-	-	36 ch.	-	-	3 Rooms
2	160m <sup>2</sup>	(Record	-	-				
3	120m <sup>2</sup>	Sound eff.	-	-	24 ch.			

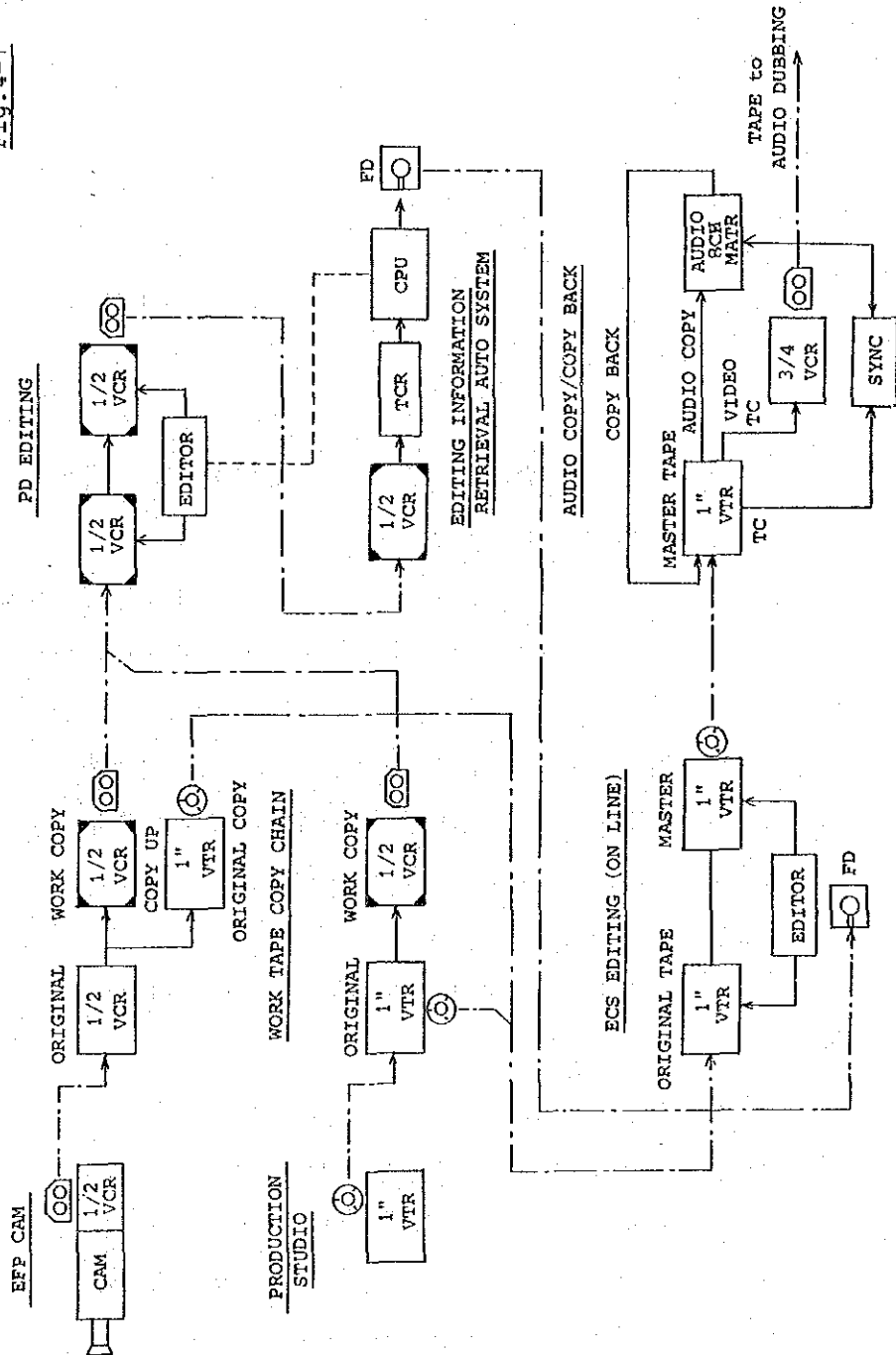
#### 4-3-3 音声編集

VTR の音声編集方法としては、映像編集が終わったあとの映像・音声を一本のテープ（音声はマルチ・チャンネル）にコピーしたうえ編集するシングル方式と、映像と音声を夫々別のテープに移したうえ、同時再生しながら音声編集を行うダブル方式がある。

シングル方式の方が、取扱い操作が簡単であるが、テープ上の音声トラック数が限られるため、ステレオ番組や2ヶ国語番組には適当でない。将来の発展を考慮に入れて、ダブル方式を採用することとする。

Fig. 4-1

VTR EDITING SYSTEM



: CONSUMABLE TYPE VIDEO CASSETTE TAPE RECORDER/REPRODUCER

1/2 VCR

#### 4-4 集中機器室の機能

##### 4-4-1 集中機器室

新テレビ・センターには、つぎの集中機器室を設ける。

- (1) VTR オペレーションセンター
- (2) VTR 編集センター
- (3) ビデオ・コピー室
- (4) テレシネセンター
- (5) その他

##### 4-4-2 VTR オペレーションセンター

既に、4-2-11項で述べたとおり、VTR センターに設置されたVTR は番組制作の必要に応じて、各スタジオに接続され使用される。

一方、新テレビ・センターで制作された全番組は、毎日、マイクロ回線を通じて、カイロの放送センターへ送られる。このため3台のVTR が常時使われることとなろう。

また、国際的な番組交換も年々増加してゆくと予想されるし、諸外国からの番組素材もふんだんに番組制作の中にとり入れられることとなろう。このため、NTSC等他の方式のVTR 機器も含めた方式変換装置が少なくとも一式必要となる。

VTR センターに設置される主な設備はつぎのとおり。

- (1) VTR ..... 13 台

主として、

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| カイロ放送センターへ番組伝送のため .....    | 3 台 |
| カイロ放送センターで受信のため .....      | 3 台 |
| スタジオでの番組制作バックアップ用として ..... | 4 台 |
| 番組モニター用として .....           | 2 台 |
| F→Vダビング用として .....          | 1 台 |

- (2) 方式変換装置 .....

異方式 VTR (NTSC) ..... 2 台+ (2台)

#### 4-4-3 VTR 編集センター

“オフ・ライン・VTR 編集”の運用を推進するのにこのVTR 編集センターが重要な役割を果たす。VTR 編集のためのワーク・テープ・コピーとか ECS編集（電子制御自動編集）それに音声編集のためのワーク・テープ・コピー及びコピー・バック等のポスト・プロダクション作業がこの VTR編集センターで行われる。

VTR 編集センターに設置される主な設備はつぎのとおり。

- (1) ワーク・テープ・コピー装置 ..... 12 式  
(オリジナル・テープからワーク・テープへコピー)
- (2) ECS 編集装置 ..... 12 式  
(オリジナル・テープの編集)
- (3) 音声コピー／コピーバック装置 ..... 2 式  
(音声ダビング)

#### 4-4-4 ビデオ・コピー室

ビデオ・コピー室は専ら制作された番組を、国内外に頒布するためのテープ・コピーのために使われる。

ドラマ形式の番組の大多数とかなりの数の一般教養教育番組が主としてアラブ諸国に売られる。このため、完成した番組は各種方式の VTRテープにコピーされる。一度に多数のコピー・テープが作られるようなマルチ・コピー装置が必要である。

ビデオ・コピー室に設置される主な設備はつぎのとおり。

マルチ・コピー・VTR 装置として

- (1) 1” 再生 VTR ..... 2 台
- (2) 収録用 VTR ..... 18 台  
(PAL、SECAM. 1”、 $\frac{3}{4}$ ”、 $\frac{1}{2}$ ” を含む)
- (3) 簡易方式変換器 ..... 1 台  
(PAL→SECAM、トランスコーダー)



#### 4-4-5 テレシネ・センター

前述のとおり、近い将来、殆どのフィルム素材はビデオに置き替えられると予想される。とは云え、例えば歴史的に貴重なフィルムとか、記録フィルム等のように、まだフィルムに頼らざるを得ない素材も若干は残るであろう。

このため、必要最低限のテレシネ装置は必要であり、集中機器として、テレシネ・センターに設置され、必要に応じて、ここでビデオに変換され、或は主調整室経由でスタジオへ送出される。

日常の運用方法としては、フィルム素材は事前にビデオに変換して、保存し、使われることを提案したい。

テレシネ・センターに設置される主な設備は次のとおり。

テレシネ装置 ..... 3 式

#### 4-4-6 その他

上記の集中機器室の他に、つぎに列挙する共用機材、設備、およびそれらの機器を設置するための部屋、スペースが必要となる。

- (1) 同期信号発生器及び分配器
- (2) マイクロ回線送・受信装置
- (3) トランスコーダー (PAL→SECAM、送信所むけ)
- (4) 時計信号発生装置及び分配器

これらの機器は、保守・運用の便のため、主調整の近辺に設置されることが望ましい。

#### 4-5 運行スタジオと番組送出装置

##### 4-5-1 運行スタジオの必要性

新テレビ・センターは番組制作センターであるから、基本的には、番組を、放送に送り出すための装置は必要ない。

しかしながら、もし、カイロ放送センターに何らかの異常が起こって、機能をストップしたような場合は、この新テレビ・センターから、番組が放送されなければならない。

このような非常の場合に備えて少なくとも一室の運行スタジオが必要となる。

さらに将来のことを考えて、(ERTUは3チャンネルの放送を出しているのもうあと、2室分の運行スタジオ用としてのスペースを確保しておく必要がある。

しかし、このようなケースはまれであるので、非常時以外は一般の番組制作用に充てられる。

#### 4-5-2 番組送出装置

前記、非常の場合は別として、新テレビ・センターで制作された番組は、日常、カイロ放送センターへマイクロ回線を使って送られる。

新テレビ・センター運用上必要となるマイクロ回線用機器は前項、非常放送用のものを含めてつぎのとおりとなる。

##### (1) 新テレビ・センター —— テレビ放送所間

新テレビ・センター	→	放送所	.....	2回線
放送所	→	新テレビ・センター	...	1回線

##### (2) 新テレビ・センター —— カイロ放送センター間

送・受とも	.....	2回線
-------	-------	-----

#### 4-5-3 新テレビセンター、カイロ放送センター間の連絡システム

新テレビセンターとカイロ放送センターの間に一般加入電話回線以外に、ERTU自営の専用通信回線を設備する。この設備は UHF 帯の多重無線電話装置とし、通話容量としては5~10回線を用意し、これらの回線は両センターにこのシステム専用に準備する小形の交換機(PABX)を経由して接続される。

尚、付言すれば、この回線は一般加入電話回線とはリンクしないものである。

#### 4-6 フィルム現像設備の必要性

前記、第3編、3-5項参照

#### 4-7 フィルムおよびVTRテープ保存

##### 4-7-1 保存場所

- (1) 番組制作のために使われるフィルムやVTRテープ素材は新テレビ・センターで保存する。
- (2) 新テレビ・センターで制作した完成テープも全て新テレビ・センターで保存する。

なお、完成した番組は前述のとおり、カイロ放送センターへマイクロ回線で送られ、そこから放送されることとなるので、カイロ放送センターでもテープが保存されることになる。

##### 4-7-2 保存される資料の量および保存のためのスペース

今後10年間を見通して保存されるVTRテープの量をつぎのように見込む

###### (1) 完成番組

新テレビ・センターで制作された番組は全部10年間保存

$$2,100 \text{ 時間} \times 10 \text{ 年} = 21,000 \text{ 時間}$$

###### (2) 素材

$$\text{ドラマ制作用} \quad 600 \text{ 時間} \times 4 \text{ 倍} = 2,400 \text{ 時間}$$

$$\text{一般番組用} \quad 1,500 \text{ 時間} \times 2 \text{ 倍} = 3,000 \text{ 時間}$$

###### (3) マーケティング番組（交換番組を含む）

$$\text{ドラマ} \quad 600 \text{ 時間} \times 10 \text{ヶ国} = 6,000 \text{ 時間}$$

$$\text{一般番組} \quad 500 \text{ 時間} \times 10 \text{ヶ国} = 5,000 \text{ 時間}$$

以上合計約36,000時間

この、約36,000時間分と見込まれる番組テープを保存するため、新テレビ・センター内に約2,000m<sup>2</sup>の保存場所を確保する必要がある。また、VTRテープは相当の重量物であり、これだけの量を保存する場合、総重量も相当大きな値となる。

$$(3\text{kg}/1\text{時間} \times 36,000\text{時間} = 108\text{トン})$$

保存場所の建物の構造についても、あらかじめ配慮しておく必要がある。

#### 4-7-3 保存資料の管理および検索システム

前述のとおり、このほ大な量の保存資料、テープを管理し、必要なときいつでもとり出せるような検索作業を効率よく行うために、コンピューター・システムが威力を発揮する。

保存資料は、新テレビ・センターの創業開始後暫くは、量もそれ程多くはなく、人手に頼っても管理可能と思われるが、近い将来コンピューター利用が必須条件となる。

そのため、初期から、コンピューター利用による管理、検索のシステムを導入して運用することが望ましい。36,000時間分の資料管理のためならば、それ程大型のコンピューターは必要としない。小型のオフィス・コンピューターと既存のソフト・ウェアを使うことにより、効率的な資料管理システムを作り上げることが望ましい。

#### 4-8 将来の音声多重、テレテキスト、衛星放送等についての考察

##### 4-8-1 音声多重放送

ERTUには現在のところ、テレビで音声ステレオ放送を実施しようとする計画はない。しかし、将来、2ヶ国語放送に対する要望は年を追って強くなることが予想されている。

従って、新テレビ・センターでは最初から、2ヶ国語放送に耐えられるよう、つぎのような音声設備について、設計段階から考慮しておく必要がある。(特に主調整室関係)

\*音声マトリックス

\*音声回路

#### 4-8-2 テレテキスト放送

将来の放送の発展を展望して、テレテキスト放送用施設を設置できるスペースを、主調整室の近辺に用意しておくことが必要である。

#### 4-8-3 衛星放送

新テレビ・センターは、番組制作センターであるから、当面はここから衛星放送を実施することは考えなくてよい。しかし、将来のことを考えると、衛星放送のための機材設置場所、アップ・リンク・アンテナの設置場所等は考慮に入れておく必要がある。

#### 4-8-4 新テレビ・センターへのコンピューター導入について

例えば NHKの放送センターを見ると、全番組についてPDが番組企画をする段階から、制作スケジュールをコンピューターに入力し、この情報が、番組制作関連部門までコンピューターの端末装置を通して伝えられる。

関連部門では、この情報をもとに、必要な日・時に要員を手配し、制作作業の手配をする。スタジオの割当も、制作時に必要な VTR等リソースの割り当ても、コンピューターを通じて行われ、必要な時間 VTR等のリソースがコンピューターにより自動的にスタジオに接続される。一方、番組を放送する面から見ると、ラジオ・テレビ・合計5波の番組編成表が、コンピューターに記憶されており、朝の放送開始から夜中の終了までこの番組表に従って、VTR 再生番組（例えばドラマ）、つぎは生スタジオ番組（ニュースなど）、またそのつぎは地方局発の番組 ---- という具合に、一秒の狂いもなく自動的に放送番組が切替えられてゆく。また、放送用 VTRテープも、時間になると、コンピューターにより検索され、自動倉庫から取り出され、放送が終ったテープも自動的に倉庫に保管されるというシステムになっている。

NHK ではこれを、TOPICS (Total On-line Programing and Information Control System)と称して、今や、このシステムなしでは放送センターの運営は考えられない。

NHK は、このTOPICSを導入するに当って、当初の計画段階から、システム設計、プログラム設計、要員訓練……と1968年に実際に運用を開始するまでに7年の歳月を費やした。

このように、トータル・オン・ラインのコンピューター・システムを導入しようとするれば、十分な準備期間が必要であると同時に、何よりも大事なものは、制作に関係する要員全員に対して、十分な訓練を必要とするということである。

新テレビ・センターはつぎのような理由から、このような大がかりなコンピューター・システムを導入する必要はない。

- (1) 専ら番組制作のためのセンターであり、送出センターではないので、リアルタイムで機材、設備のスイッチングをする必要がない。
- (2) VTR 等スタジオに分散配置されており、スタジオ単独でも、殆どの番組が制作できる設備となっており、コンピューターを使って、機材・リソースを接続する必要がない。
- (3) スタジオ13室程度の制作情報を管理・処理するのに大型コンピューターは適当でない。

しかしながら、新テレビ・センターの日常運用を近代化し、効率化をはかろうとすれば、例えばワード・プロセッサーや給与計算・在庫管理のようなオフィス・オートメーションが今やビジネス界の常識になっているように、小型コンピューターを必要な部門に導入して、単純・繰返しの手作業や、情報整理・検索……といったコンピューターの得意な分野の仕事をコンピューター化することが望ましい。この場合でも、どの程度の大きさのコンピューターを使うか、何の目的に使うのか、使う人の訓練は……といった事前の十分な検討、準備が必要である。

新テレビ・センターでは当面つぎのような順序で、段階的に各部門でのコンピューター導入が必要であろう。

- (1) VTR 編集
- (2) 保存番組、資料、素材の検索、管理
- (3) 要員の人事資料、給与計算
- (4) 番組制作費の管理
- (5) スタジオ、リハーサル室、VTR 等のリソースの割当、管理

本編の最後に番組制作関連室に設備される主要機器の概要を第 4-2表に示す。

#### 添付資料

資料 1 として機器概略構成表を、資料 2 として映像音声系統ブロックダイアグラムを添付してある。

SUMMARIZED TABLE FOR PRINCIPAL EQUIPMENT OF EACH STUDIO AND ROOM

Table 4 - 2

STUDIO / ROOM	VIDEO										AUDIO					MICRO HAVE LINK	
	Standard Camera	Handy Camera	1 Inch VTR	U-matic VCR	Beam VCR (component)	VHS VCR	V Mix (MK)	DVE	Sys. Conv /Transcode	TC(35/16) Equip.	Mixer	Tape Rec/Rep	Disc	Cassette	Multi Tape		
* Studio No. 1 - 13, Continuity and Utility Studio No. 1 - 3 Sub Total	42	12	38	-	-	7	2MK x 1 3MK x 16	6	-	-	36CH x 1 24CH x 10 16CH x 6	34	17	17	-	-	
Master Control	-	-	-	-	-	-	-	-	Transcoder 2	-	-	-	-	-	-	-	
VTR Operation Center	-	-	13 NTSC x 2	NTSC 2	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
Marketing Video Copy	-	-	10 8 from x 4	(H) 2 (L) 2	-	2	-	-	Transcoder 1	-	-	-	-	-	-	-	
Work Tape Copy Chain	-	-	12	-	9	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
PD Editing	-	-	-	-	-	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Editing I/R Auto Sys	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ECS VTR Editing	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Audio Copy/Copy back	-	-	2	(H) 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8CH x 2	-	
TC Center	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	
EPF Camera	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 - EPF Vans	-	6	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Sound Rec Studio NO. 1, 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36CH x 2	4	-	-	24CH x 2	-	
Sound Rec Studio NO. 3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24CH x 1	2	-	-	16CH x 1	-	
Audio Dubbing No. 1 - 5	-	-	-	(H) 5	-	-	-	-	-	-	16CH x 5	3x5	1x5	1x5	8CH x 5	-	
Viewing Booth NO. 1 - 5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Computer Graphic	-	-	-	Still Frame 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Microwave Link	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Total	42	58	106	13	13	110	2MK x 1 3MK x 16	6	4	3	36CH x 3 24CH x 11 16CH x 11	55	22	22	8CH x 7 16CH x 1 24CH x 2	7	PAL x 4 SECAM x 3

\* Detail Figures on each Studio are Shown in Table 4 - 1





## 付 属 資 料



SUMMARY SCHEDULE OF BROADCASTING EQUIPMENT

## 1. Production Studio Facilities

1-1 Studio No. 1 (900 m<sup>2</sup>)

- 4 sets of Standard Studio Color Camera
- 2 sets of Handy Color Camera
- 1 set of Camera Crane
- 1 set of Vision Mixer (Input Channel: 16 3MK Amp)
- 2 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer with Simple Editing Functions
- 1 set of Video Typewriter (Arabic)
- 1 set of Video Monitoring Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 36CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 2 sets of Audio Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Monitoring Equipment
- 1 set of Studio Intercommunication System
- 1 set of Studio Lighting System (capacity 900 kW)

1-2 Studio No. 2 - No. 6 (600 m<sup>2</sup>)

Each Studio consisting of:

- 3 sets of Standard Studio Color Camera
- 1 set of Handy Color Camera
- 1 set of Camera Crane
- 1 set of Vision Mixer (Input Channel: 16 3MK Amp)
- 2 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer with Simple Editing Function
- 1 set of Video Typewriter (Arabic)
- 1 set of Video Monitoring Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual Type
- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 24CH Audio Mixer (Input Level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 2 sets of Audio Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Monitoring Equipment
- 1 set of Studio Intercommunication System
- 1 set of Studio Lighting System (capacity 450 kW)

1-3 Studio No. 7 - No. 11 (300 m<sup>2</sup>)

Each Studio consisting of:

- 3 sets of Standard Studio Color Camera
- 1 set of Handy Color Camera
- 1 set of Vision Mixer (Input Channel: 16 3MK Amp)
- 2 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer with Simple Editing Functions
- 1 set of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer
- 1 set of Video Typewriter (Arabic)
- 1 set of Video Monitoring Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 24CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 2 sets of Audio Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Monitoring Equipment
- 1 set of Studio Intercommunication System
- 1 set of Studio Lighting System (Capacity: St. No. 7 300 kW  
St. No. 8-11 250 kW)

1-4 Studio No. 12, 13 (300 m<sup>2</sup>)

Each Studio consisting of:

- 3 sets of Standard Studio Color Camera
- 1 set of Vision Mixer (Input Channel: 16 3MK Amp)
- 1 set of Digital Video Effects (DVE)
- 2 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer with Simple Editing Functions
- 1 set of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer
- 1 set of Video Typewriter (Arabic)
- 1 set of Video Monitoring Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 16CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 2 sets of Audio Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Monitoring Equipment
- 1 set of Studio Intercommunication System
- 1 set of Studio Lighting System (capacity: 250 kW)

## 2. Continuity Studio Facilities

- 2 sets of Standard Studio Color Camera
- 1 set of Vision Mixer (Input Channel: 16 2 MK Amp)
- 1 set of Digital Video Effects (DVE)
- 3 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer with Simple Editing Functions
- 1 set of Video Typewriter (Arabic)
- 1 set of Video Monitoring Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 16CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 2 sets of Audio Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Monitoring Equipment
- 1 set of Studio Intercommunication System
- 1 set of Studio Lighting System (capacity: 50 kW)



### 3. Utility Studio (No. 1 - No. 3) Facilities

Each Studio consisting of:

- 1 set of Vision Mixer (Input Channel: 16 3MK Amp)
- 1 set of Digital Video Effects (DVE)
- 1 set of Caption Scanner
- 1 set of Video Typewriter (Arabic)
- 3 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer with Simple Editing Function
- 1 set of Video Monitoring Equipments
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of 16CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 2 sets of Audio Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Monitoring Equipment

#### 4. VTR Operation Center Facilities

- 13 sets of PAL/SECAM System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer (3 sets of above quantity are for recorder in Cairo Center)
- 2 sets of NTSC System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer
- 2 sets of NTSC System U-matic Video Cassette Recorder/Reproducer
- 1 set of System Converter for NTSC/PAL/SECAM
- 2 sets of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Video and Audio Ancillary Equipment

#### 5. Telecine Center Facilities

- 3 sets of 16/35 mm Telecine Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Video and Audio Monitoring Equipment

## 6. Master Control Room Facilities

- 1 set of Video/Audio Output Switcher
- 1 set of VTR Assignment Switcher  
(Video/Audio/Control)
- 1 set of Telecine Chain Assignment Switcher  
(Video/Audio/Control)
- 3 sets of Processing Amplifiers
- 2 sets of Frame Synchronizers
- 2 sets of Transcoders for PAL/SECAM
- 1 set of Video Distributors
- 1 set of Audio Distributors
- 1 set of Control Console for Output, VTR Assignment and Telecine  
Assignment Switcher
- 1 set of Video and Audio Monitoring Equipment
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Pulse Distributor
- 1 set of Communication System between New TV Center and ERTU  
Cairo Headquarter

## 7. Microwave Link Room Facilities

- 4 sets of Microwave Link of PAL System  
(To and from Cairo Center)
- 3 sets of Microwave Link of SECAM System  
(To and from Moqattam TX Station)
- 1 set of Ancillary Equipment
- 1 set of Microwave Link Tower  
(Height: 20 m)

## 8. Marketing Video Copy Room Facilities

### 8-1 Video Recorder/Reproducer Equipment

- 2 sets of PAL/SECAM System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer
- 8 sets of PAL/SECAM System C format 1" Video Tape Recorder
- 4 sets of PAL/SECAM System B format 1" Video Tape Recorder
- 2 sets of PAL System U-matic High-band Video Cassette Recorder
- 2 sets of PAL System U-matic Low-band Video Cassette Recorder
- 2 sets of Multiple System Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer

8-2 Ancillary Equipment

- 1 set of Transcoder for PAL/SECAM
- 1 set of Video Distributor
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Pulse Distributor
- 1 set of Audio Distributor

9. VTR Editing Center Facilities (Off Line Editing System)

9-1 Work Tape Copy Chain

- 12 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer
- 9 sets of PAL System Component System 1/2"-Beta Video Cassette Recorder/Reproducer
- 12 sets of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer
- 12 sets of Time Code Generator
- 1 set of Ancillary Equipment

9-2 PD Editing

- 80 sets of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer
- 40 sets of Editing Units

9-3 Editing Information Retrieval Automation System

2 sets of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer

2 sets of Time Code Reader

2 sets of Mini Computer System (Hard and Soft Ware)

9-4 ECS VTR Editing Chain (12 chain)

24 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer

12 sets of Automatic Editing System

12 sets of Video Compensation Units (Color Corrector, Noise Reducer)

9-5 Audio Copy/Copy Back Section

2 sets of PAL System C format 1" Video Tape Recorder/Reproducer

2 sets of U-matic High-band Video Cassette Recorder/Reproducer

2 sets of 8CH Multi Audio Tape Recorder/Reproducer

2 sets of Time Code Synchronizer

1 set of Ancillary Equipment

9-6 Pulse System

1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type

1 set of Pulse Distributor

## 10. Audio Dubbing (ST1 - 5) Facilities

Each consisting of:

- 1 set of U-matic High-band Video Cassette Recorder/Reproducer
- 1 set of 16CH Audio Mixer with Sound Effect Equipment (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 1 set of 8CH Multi Audio Tape Recorder/Reproducer
- 3 sets of Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Audio Cassette Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Disc Reproducer
- 1 set of Tape Lock Machine
- 1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type
- 1 set of Video and Audio Monitoring Equipment
- 1 set of Microphone and Accessory for Commentator's Booth

## 11. EFP Facilities

### 11-1 EFP Camera

- 40 sets of Component System 1/2"-Beta Video Cassette Recorder in 3-Tube Shoulder type Camera
- 40 sets of Accessories

11-2 EFP Van

- 2 sets of EFP Van each including  
3-Shoulder Cameras, VTR, Video/Audio Equipments, Air-conditioner and one AC Power Generator

12. Sound Recording Studio Facilities

12-1 Studio No. 1, No. 2 (160 m<sup>2</sup>)

Each Studio consisting of:

- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 36CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 1 set of 24CH Multi Audio Tape Recorder/Reproducer
- 2 sets of Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Reverberation Unit (Electronic type)
- 1 set of Audio Monitoring Equipment

12-2 Studio No. 3 (120 m<sup>2</sup>)

- 1 set of Microphones and Accessories
- 1 set of 24CH Audio Mixer (Input level selectable: MIC, LINE 1, 2)
- 1 set of 16CH Multi Audio Tape Recorder/Reproducer
- 2 sets of Tape Recorder/Reproducer
- 1 set of Reverberation Unit (Electronic type)
- 1 set of Audio Monitoring Equipment



13. Others

13-1 Viewing Booth (No. 1 - 5) Facilities

Each Booth consisting of:

1 set of Consumable type VHS Video Cassette Recorder/Reproducer

1 set of Video Monitor with Loud Speaker

13-2 Audition Room (No. 1, 2) Facilities

Each Room consisting of:

1 set of Video Projector with Screen

1 set of Audio Monitor

13-3 Computer Graphic/Animation Room

1 set of Computer Graphic/Animation System

1 set of PAL System C format 1" Still Frame Video Tape Recorder/Reproducer with Slow Motion Controller and Time Base Corrector

1 set of PAL Synchronizing Pulse Generator of Dual type

#### 13-4 Off-Air Monitor System

- 1 set of SECAM Modulator
- 1 set of Head End
- 1 set of Distributors
- 100 sets of SECAM TV Receivers

#### 13-5 Room to Room Loudspeaking Intercommunication System

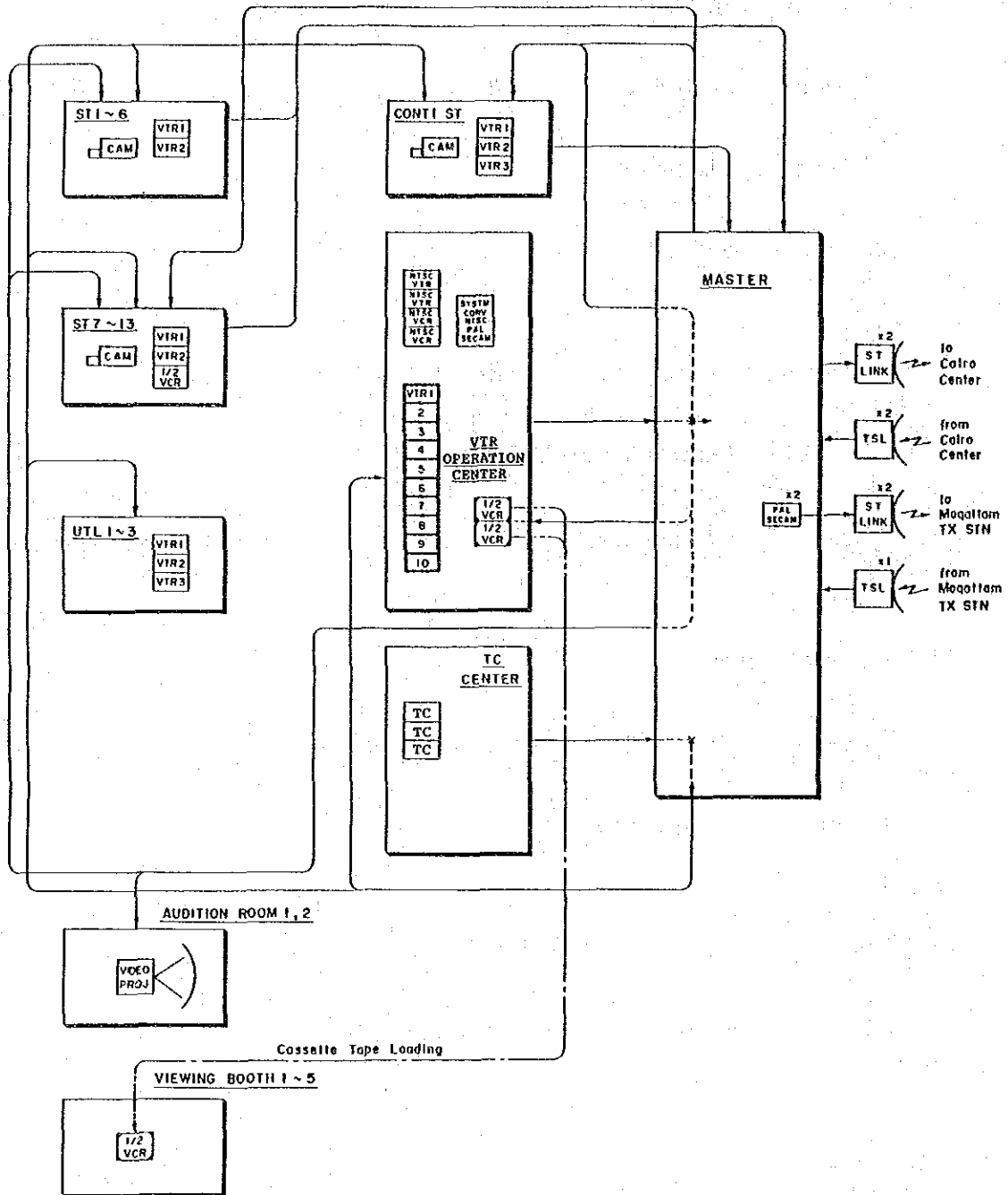
- 1 set of Central Matrix/Amplifier Unit
- 100 sets of Communication Terminals with Key, Microphone and Speaker

#### 13-6 Clock System

- 1 set of Crystal Controlled Master Clock Facility
- 200 sets of Slave Clock

#### 13-7 System for Management and Retrieval of the Stored Materials

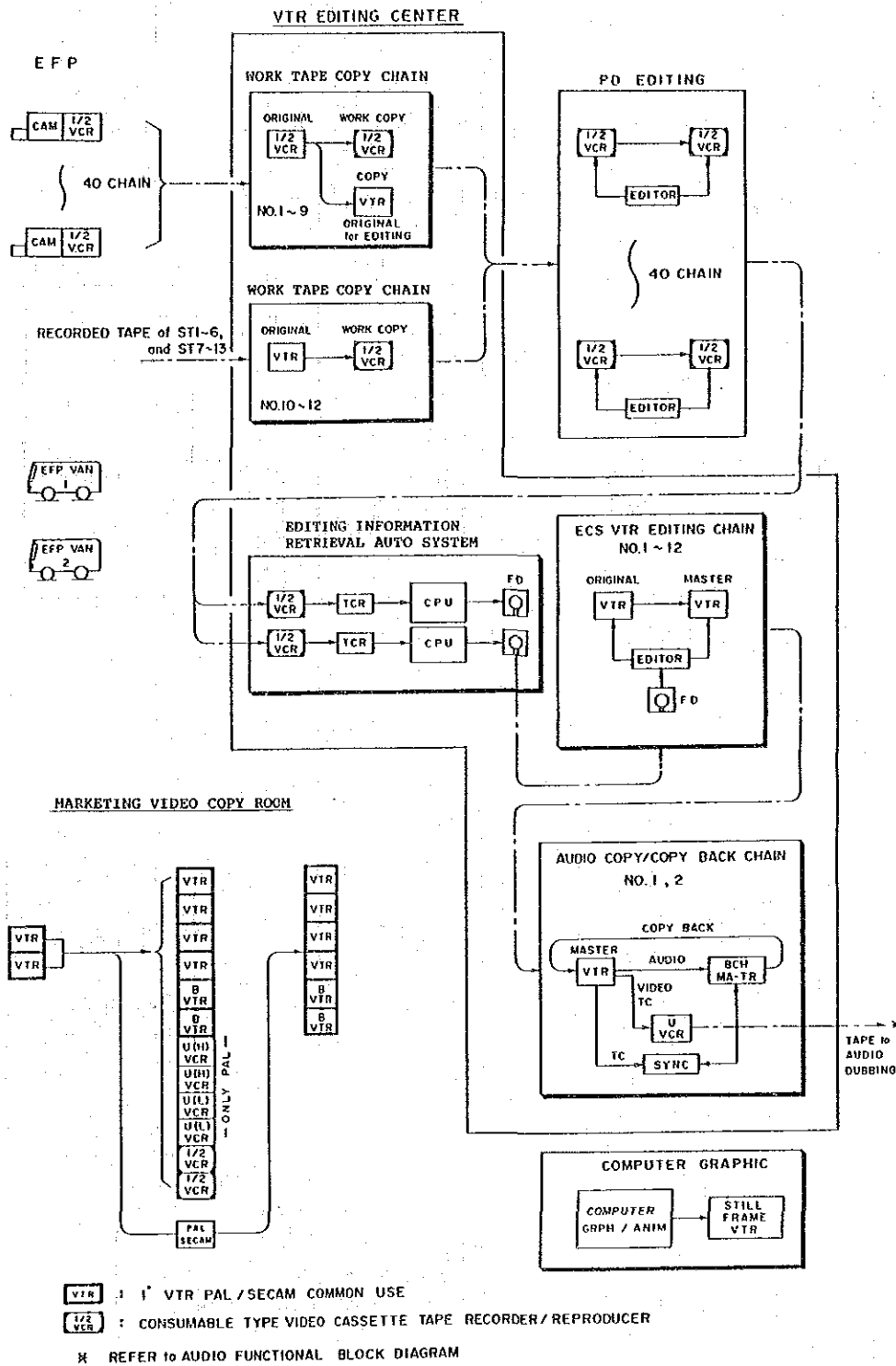
- 1 set of Micro Computer System



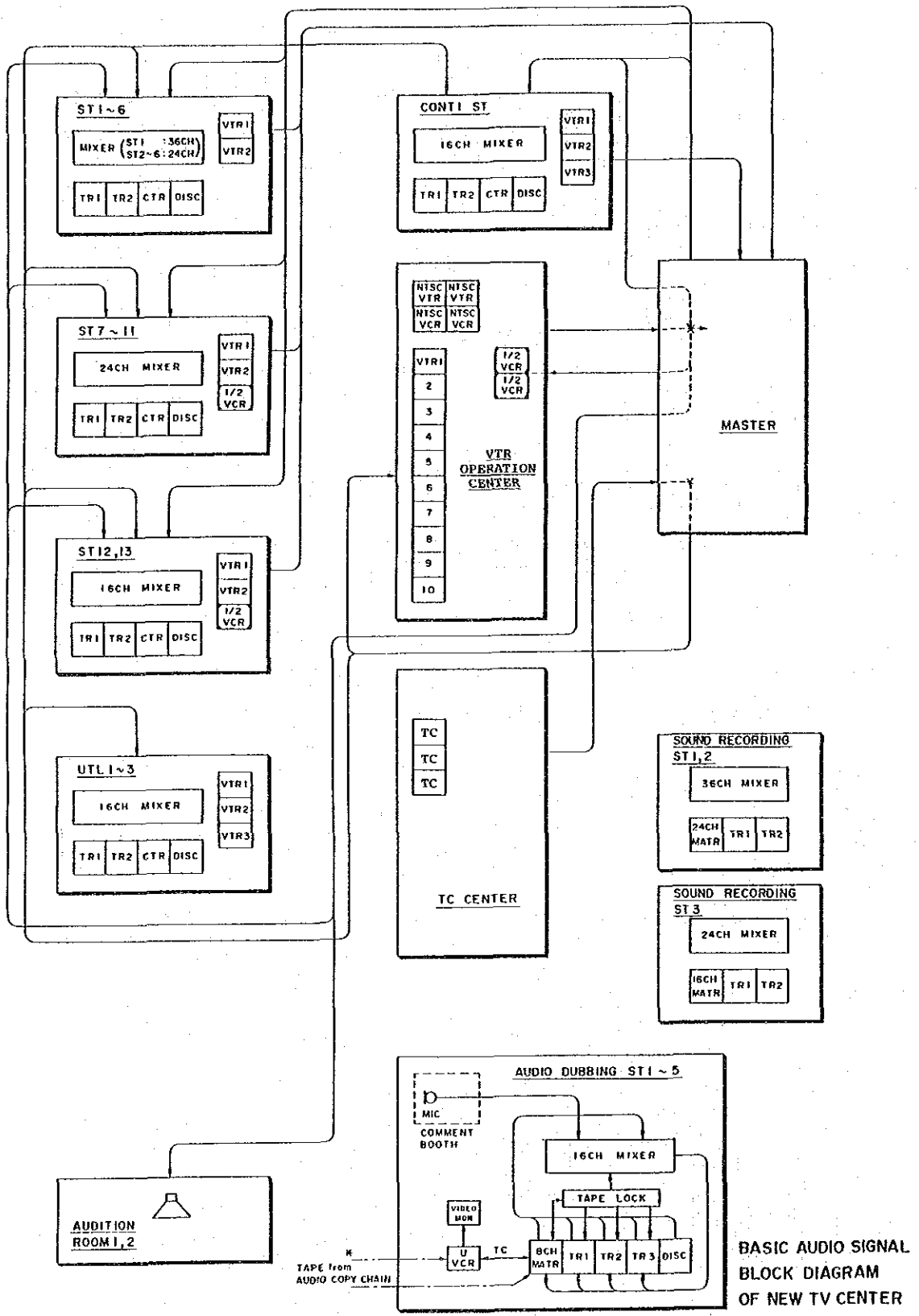
**1/2 VCR** : CONSUMABLE TYPE VIDEO CASSETTE TAPE RECORDER/REPRODUCER

**VTR** : 1" VTR OF PAL/SECAM COMMON USE

BASIC VIDEO SIGNAL BLOCK DIAGRAM OF NEW TV CENTER (1/2)



BASIC VIDEO SIGNAL BLOCK DIAGRAM OF NEW TV CENTER (2/2)



BASIC AUDIO SIGNAL BLOCK DIAGRAM OF NEW TV CENTER

## 第5編

## 建築計画



## 第5編 建築計画

### 5-1 基本概念

#### 5-1-1 基本理念

建設計画の実施にあたっては以下に掲げる各項目を設計の理念及び目標とする。

##### (1) 機能及び実用性を重視する

放送施設は一般的に、その機能及び運営が複雑なものとなる。そのため、施設の配置・平面計画は効果的な管理・運営が行えるように、可能な限り単純で機能的なものとする必要がある。

一方、本計画に含まれる内容が広範となるため、計画はいくつかのフェーズに分けて実施される。従って、基本設計及び実施計画は、フェーズ分けに適応した実用的なものでなければならない。

##### (2) 現代の技術・知識を表現する

放送番組制作施設は「情報制作工場」の中心であり、現代技術による施設・機器を駆使したものとなる。

本施設はエジプトにおける放送施設の将来にわたる中心であり、中近東地域における放送機関の中核としての機能を果たことになる。そのため、本施設の計画は現代イスラム建築のデザインを取り入れながら、将来を見通した現代的なものとならねばならない。

##### (3) 将来への対応を考慮する

放送制作分野における着実な技術の進歩によってもたらされるシステム、組織の変化に対応するため、本施設計画は将来に対する十分な柔軟性と発展性を具備しなければならない。



## 5-1-2 基本概念

建築計画は以下の点を考慮して行う。

- (1) 高品質の番組を制作する。
- (2) 大量の番組を制作する。
- (3) 番組制作の効率化を計る。
- (4) 快適な労働空間を提供する。
- (5) 施設運営を効果的に行う。
- (6) 番組制作・技術・エレクトロニクスの進歩に適応する。
- (7) エジプトに適合したものとする。
- (8) 各機能の相互関係を明確化する。
- (9) 内部動線の明確化、縮小化を計る。
- (10) 人の動線と物の動線を区別する。
- (11) 機能に適応した構造計画とする。
- (12) 将来の間仕切り変更に対応してモジュール寸法による可動間仕切り工法を採用する。
- (13) 個別分散方式の空気調和設備計画とする。
- (14) スタジオは最適な音響環境とする。
- (15) 自然光を取り入れた居室空間を得る。
- (16) 外壁面を考慮し、断熱・日射防止性能を確保する。
- (17) 増築可能な平面計画とし、増築期間も既設部分への影響を最少限度に留めるよう配慮する。

## 5-2 敷地及び周辺

### 5-2-1 敷地

#### (1) 所在地

敷地はカイロ市南西33kmのシックスオクトーバ市に位置し、約2km<sup>2</sup>(200ヘクタール)の広さである。敷地の北側はカイロ市とシックスオクトーバ市を結ぶ幹線道路「Wahat Bahria Road」に面し、他は砂地に取り囲まれている。現在のところ、周辺は都市計画地域ではなく、行政上はシックスオクトーバ市に属している。

シックスオクトーバ市は、カイロ市の人口増加に対応するためエジプト政府が建設省下の新都市共同体によって建設している7～8つの新都市の中の1つである。他の新都市には「10th of Ramadan市」「Sadat市」「El Salam市」「El Ameiah市」などがあり、シックスオクトーバ市を含めたこれらは、新都市共同体の行政下におかれている。

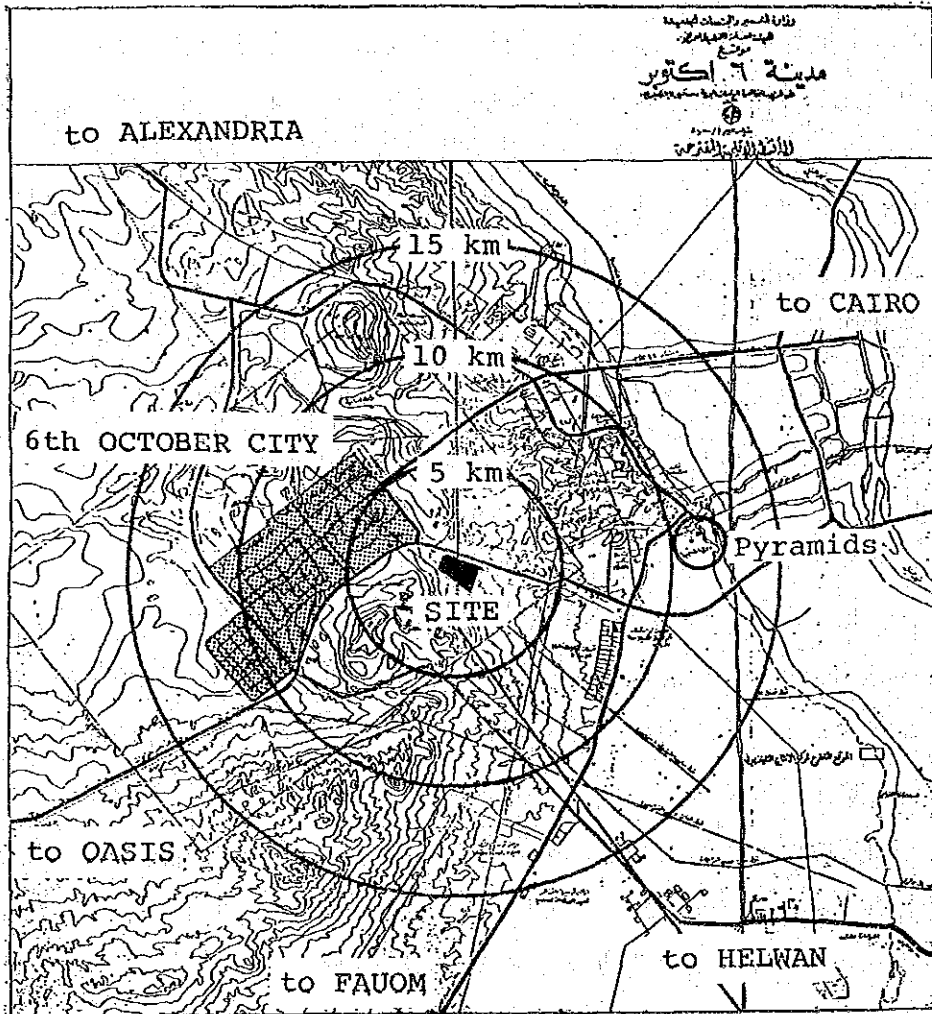
シックスオクトーバ市には2つの幹線道路が通っている。

1つはカイロとオアシス地域を結ぶもの、他はエジプト最大の工業地帯であるHelwan市と港街Alexandria市を結ぶ道路である。この2幹線道路に加えさらに、シックスオクトーバ市とカイロの中心を直接結ぶ道路が現在建設中である。

都市開発計画によると市の西側地域は上記の交通上の利点を生かして工業地帯として開発される予定であり、東側地域は50万人の居住地域として、またカイロ市の観光地域として開発されることになっている。そして将来はこの居住地域をカイロ市の方向に向かって広げ22.5km×16.5kmの地域をカバーすることとなっている。

敷地はシックスオクトーバ市の東側、上記観光地域に近接している。

图5-1 敷地所在地



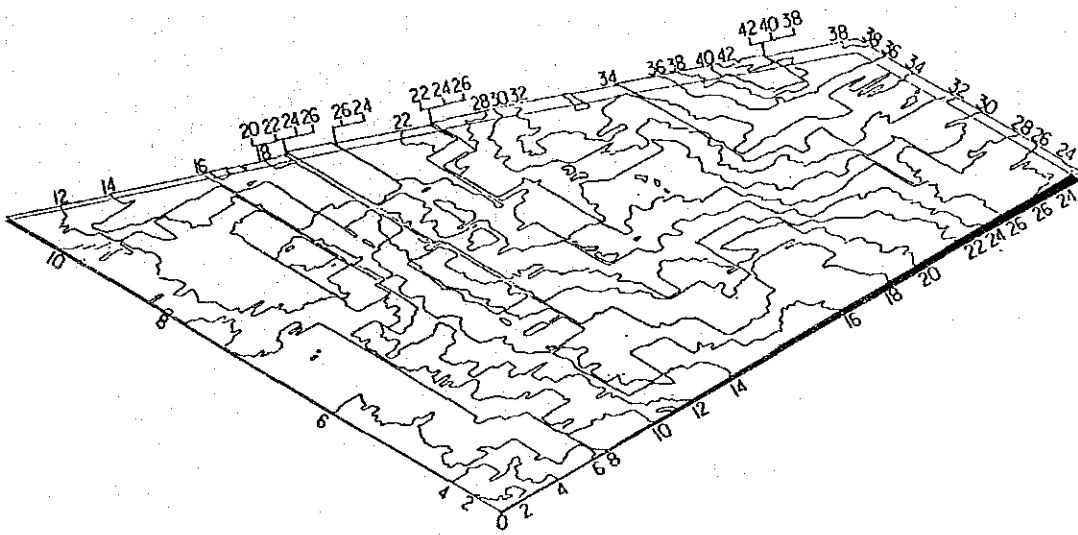
(2) 敷地高低差

ERTUで行った敷地測量によると敷地の高低差の概要は以下のようにになっている。

東北方向の高低差	10 m
東西方向の高低差	26 m
最高地点、最低地点の差	42 m

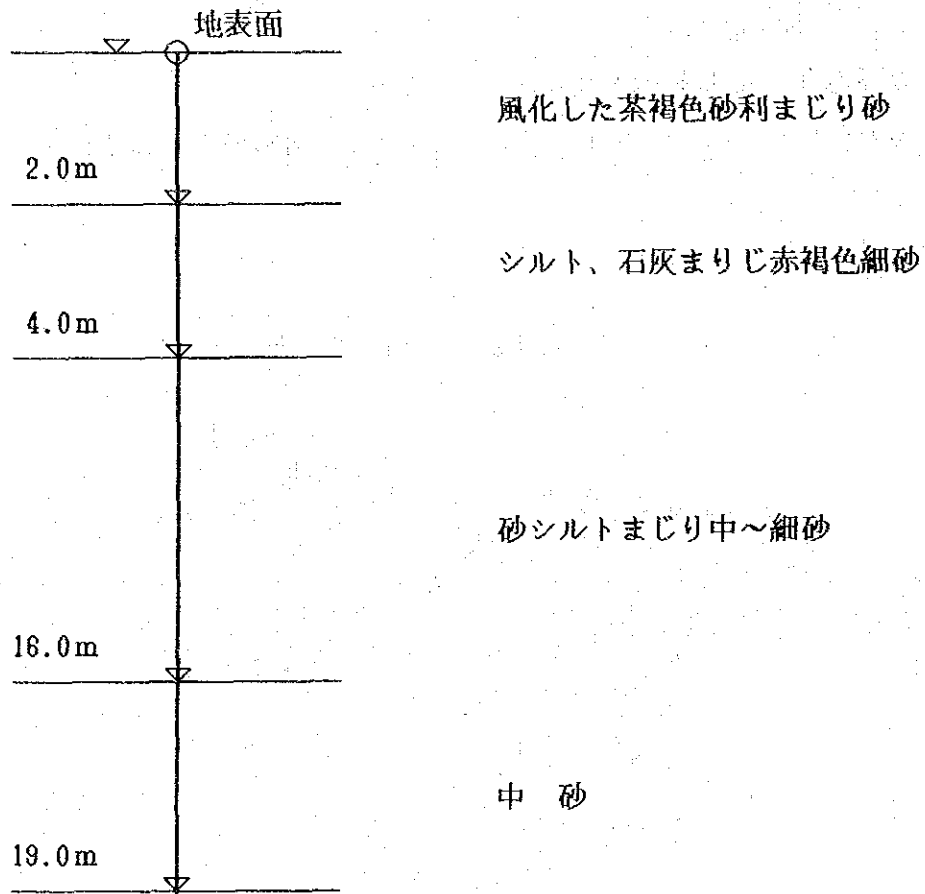
下図は敷地高低差に関するコンピューターによる分析結果である。

図5-2 地形図



(3) 地 質

ERTUより提出された地質調査報告書によると、敷地の概略は以下の通りである。



なお、地下水は25mまでのボーリングで確認されていない。

#### (4) 基幹整備状況（インフラストラクチャー）

基幹整備は現在シックスオクトーバ市の新都市開発局で計画中で、基礎的部分については一部工事が開始されている。以下は敷地周辺のインフラストラクチャーの整備状況及び計画である。

##### a. 電 力

- 敷地には20kVの電力が供給される。
- 電力引込みは4回線の予定である。
- 引込みケーブルは地中埋設で行われる。
- 20kVの電力は3年後に引込まれる予定であるため、それ以前の仮設電力は11kVとなる。

##### b. 電 話

- 電話回線は3年後に利用可能となる。
- 建設用の仮設回線は1年後に設置される。

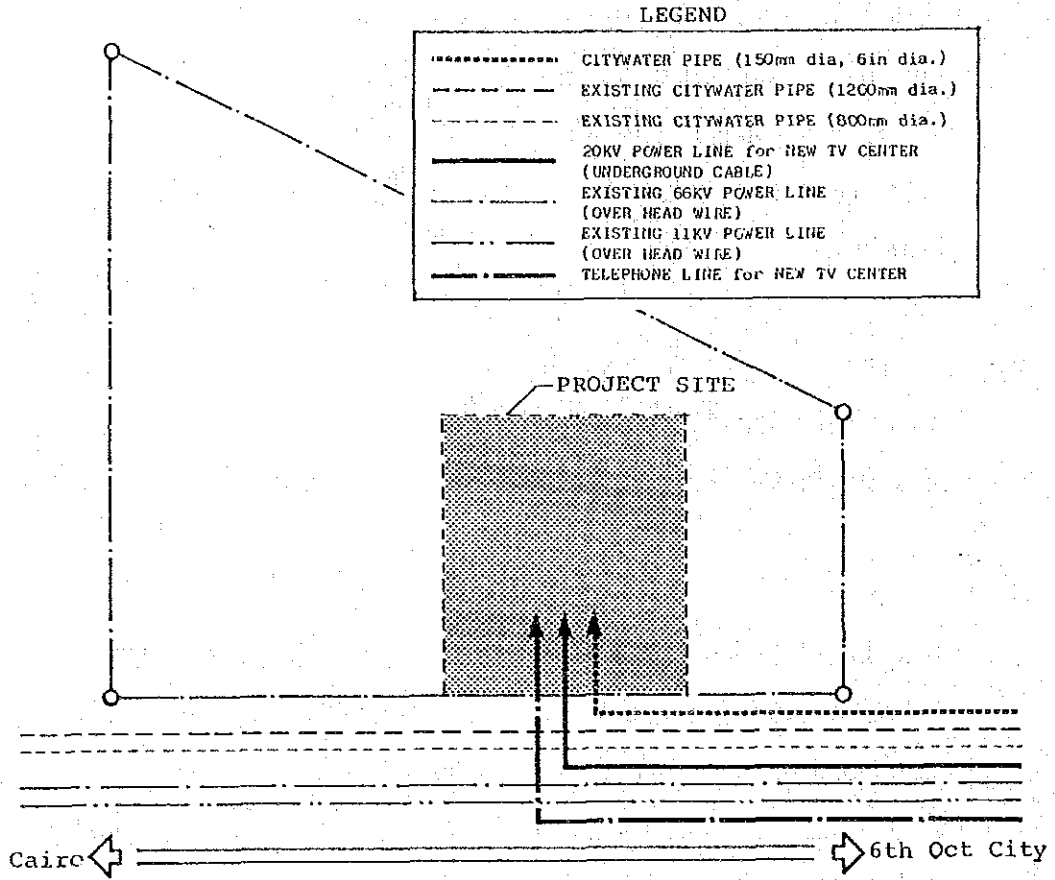
##### c. 上 水

- 現場は直径800mmと1,200mmの水道管が敷地の前面道路に埋設されているが、これらは市の水源から給水施設への本管である。800mmのパイプ埋設工事は完了しており、1,200mmについても98%完成している。
- 敷地への給水は市で処理後6インチ直径のパイプによって行われる。
- 仮設用の給水は上記800mm管から分岐して行われることになる。

##### d. 下 水

現在のところ市は本敷地への下水管理設の計画を持っていない。

图 5 - 3 敷地周边整備状况



(5) 気 象

シックスオクトーバ市における気象の状況は以下の通りである。

表 5 - 1 気 象

WEST CAIRO

ITEM	MONTH	MONTH												DURATION
		JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	
AIR TEMP. ( C )	Mean Max. Air Temperature	18.2	19.9	12.2	27.6	30.8	33.8	34.1	33.9	31.6	28.8	23.8	19.8	1957 - 1980
	Mean Min. Air Temperature	7.4	8.4	10.4	13.2	16.2	19.2	20.3	20.6	19.3	17.1	13.0	9.0	"
	Highest Max. Air Temperature	30.2	33.9	39.0	42.1	46.5	45.7	42.0	42.0	42.8	39.9	36.3	31.6	"
	Lowest Min. Air Temperature	1.0	2.9	4.3	6.4	10.3	14.1	17.2	17.2	14.5	10.0	5.9	3.5	"
Mean Relative Humidity (%)		59	55	49	44	44	45	54	57	58	59	64	60	"
RAINFALL (mm)	Mean Total Rainfall	4.0	3.2	2.5	0.8	1.2	0	0	0	0	1.7	4.7	3.8	"
	Highest Rainfall in one day	11.2	15.7	15.3	4.4	19.8	0	0	0	0.4	23.3	43.7	7.9	"
WIND VELOCITY (meter/sec)	Average surface Wind Velocity	3.8	4.2	4.8	5.0	4.9	4.8	4.9	3.7	4.0	4.0	4.1	3.6	"
	Max. Surface Wind Velocity	24.2	26.3	27.8	27.3	25.7	23.2	20.6	20.1	19.6	23.7	22.1	26.3	"
Surface Wind Direction		NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	"
Mean Sunshine (hours)		7.3	8.1	8.8	9.8	10.7	12.1	12.0	11.4	10.5	9.3	8.2	7.2	1957 - 1980

EGYPT ARAB REPUBLIC  
THE GENERAL AUTHORITY FOR  
METEOROLOGICAL OBSERVATIONS



## 5-2-2 敷地全体計画

### (1) 施設構成要素

本施設全体を構成する要素は以下の通り大別される。

#### －スタジオ施設

スタジオ13個を含む番組制作施設で、本調査の主対象となる建物である。

#### －ゲストハウス及び住居

上級管理職用の住居を2～3戸配置し、内1棟をゲストハウスとして利用する。

#### －集合住宅

技術者及び職員用の集合住宅で、50室程度のものを考慮する。

なお、ERTUはシックスオクトーバ市に建設中の集合住宅を購入して、これを技術者及び職員用住宅にあてる計画をもっており、予算化が進んでいる。

#### －運動場

本施設の職員用及び住居施設の住人用として運動場を設けテニス・コート、サッカー・コートなどを用意する。なお、スタジオ施設との間に簡単な塀を設ける。

#### －ERTU使用のための車庫・倉庫

ERTUが使用するための車庫・倉庫の建設地を確保する。

#### －フィルム・セクション

スタジオ施設に近接して、フィルム・セクションの施設建設のため場所を確保する。

ーホテル

主として出演者を数日に亘って確保しておく目的でスタジオ施設に近接して200 ベッド程度のホテルを用意する。また、重要出演者に対しては、コテージタイプの宿泊施設を用意する。

ーオープン・セット

番組制作のためのオープン・セット、例えば古代建築、自然、町の一部などのセット設営のための場所を用意する。これらオープン・セットは有料で一般に公開され、本施設の収入の一部を構成することになる。

(2) 敷地全体計画の概念

敷地の全体計画は、スタジオ施設を中心にして上記構成要素を配置することによって行われる。その基本的な概念は下に示すようになる。

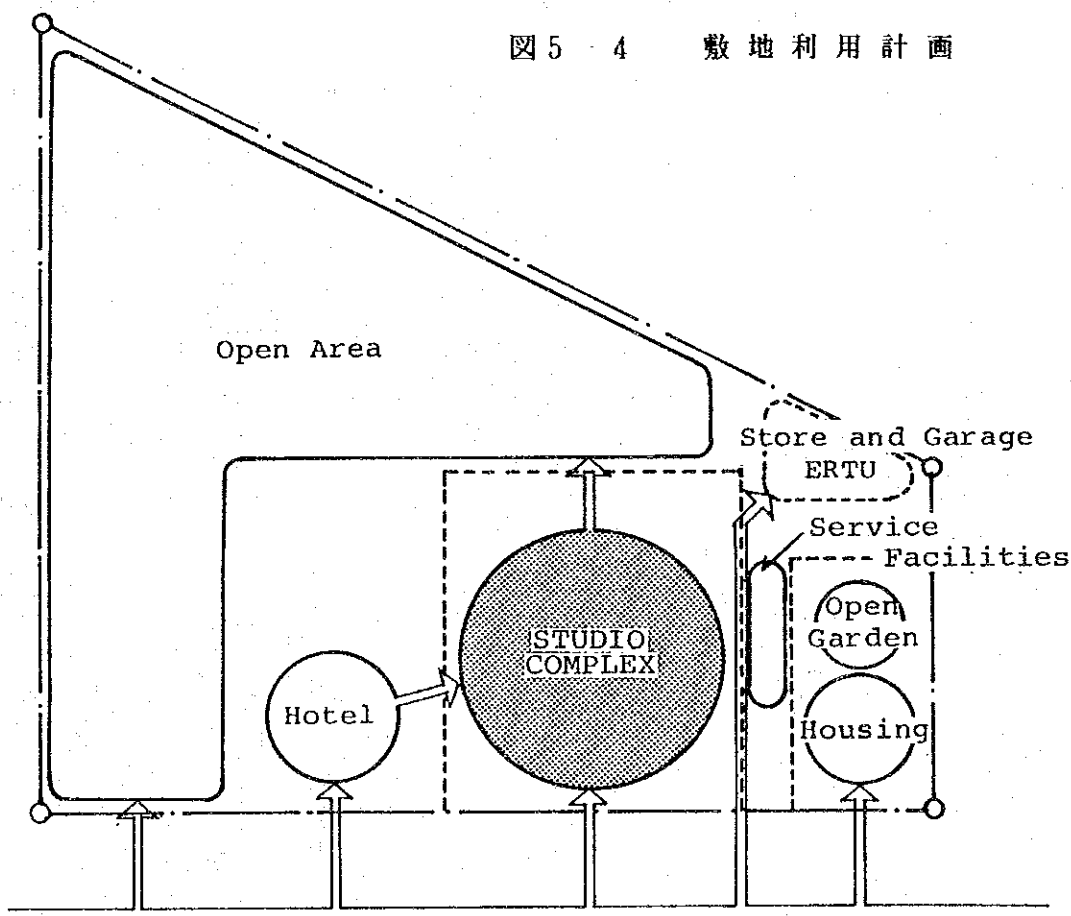


図5 4 敷地利用計画